



## 公共工事に

### 積極的な環境配慮を期待

#### 南信共同アスコンの取り組み



「私たちの仕事の大部分は、公共工事の受注を受けたアスファルト製品の生産。業界でISO 14001を取得している企業はごく

少数。地球温暖化防止が至上の課題とされている今、公共団体にはぜひ、環境配慮の取り組みを評価した仕組みをつくってほしい。中澤信二工場長の発言に思わずうなずく。



研究会事業所会員、南信共同アスコン株式会社。地元建設会社8社の協同出資で1990年に誕生。吸音性の透水性舗装、木片チップを含んだアスファルトなど、環境に配慮した製品を開発しています。最近では伊南バイパス全長4kmで吸音性の材料が使われています。現在製造しているアスファルトコンクリートの大半も再生材料です。ISO14001は2000年6月26日に認証取得。省エネ活動も積極的で、取り組み開始後、約100万円の削減効果が生まれました。「環境配慮の材料を作るコストや手間は大きい。しかし地球温暖化問題など大きな視野で世の中を観ることが必要。ISOという言葉で全く異なる業種の人たちが集まる研究会。今回の改定でも研究会会員だからこそいろいろな相談が気軽にできた。しかしそれ以上に研究会から発信される情報や事業所見学などを通して、環境問題の意識が広がっていくことが大事」。研究会の意義や必要を実感する機会でした。

## 愛・地球博

### あっちっちサミットに

#### 飯田市からも参加

「水と緑の惑星、地球に暮らすものとして、温暖化防止対策を積極的に実施し、『日本一のアツさ』にまけないように、熱い心で、その輪を広げていきましょう」。8月2日(火)愛・地球博会場で「あっちっちサミット2005 in EXPO」が行われました。冒頭はサミットの共同宣言です。

主催の多治見市は、日本一の高温を記録することもあるまち。群馬県館林市、大阪府枚方市など、日本有数の「あついまち」とともに、地球温暖化防止について考える。サミット開催の主旨です。地球博に併せて開催された今回は、遠くは鹿児島県指宿市、愛媛県松山市など14市が参加。飯田市からも藤本水道環境部長が参加しました。



雨水や風呂の残り湯など水道水以外を使って気温を下げる「打ち水大作戦2005」が全国で進められています。龍谷大学の増田啓子さんが、枚方市の事例から実効性について基調講演。藤本部長からは温室効果ガス10%削減に向けて飯田市が作成した「新エネ省エネプラン」について紹介。

サミットの後半は歴代ウルトラマンも登場、熱さを忘れるユニークな企画となりました。

## 三菱電機を会場に

### 打ち水大作戦2005in 飯田

8/10 三菱電機(株)中津川製作所飯田工場で「打ち水大作戦2005in 飯田」が行われました。「夏休み一研究! 太陽光発電を学ぼう! ソーラーカー作り」。県地球温暖化推進員主催の催しにあわせたものです。

打ち水大作戦はこの日、全国規模で行われました。水道水以外を活用し、地面に水をまくことで日本の気温を下げる。開催主旨です。

ソーラーカー作りに参加した伊賀良小学校の4、5、6年生と三菱電機従

業員の皆さんの共同作業となりました。午後には、飯田市役所でも実施。

「たかが水やり、されど水やり」。地球



温暖化防止の意識づくりとして意義ある一日でした。

## もう一つの夏の文化イベント

### アフィニスセミナーのご案内

8月18日から26日、第17回アフィニスセミナーが行われます。アフィニス財団と飯田市が共催。クラシックの世界では、著名な世界のプロ奏者が、日本の若手プロを養成。その発表成果をアマチュア市民の演奏家とともに発表する。練習風景も公開される世界でもユニークな取り組みです。詳しくは飯田文化会館HPをご参照ください。

<http://www.city.iida.nagano.jp/bunkakaikan/index1.htm>

\*\*\*\*\*

1988年8月6日深夜の出来事。日本最大の人形劇の祭典いげだ人形劇フェスタ。前身の人形劇カーニバル飯田が第10回を迎えることを記念して同時開催された世界人形劇フェスティバル。8日間の全日程の折り返しの日。海外から400人の人形劇団員を招いた国際的催し。毎夜飯田市公民館を会場に、盛大な交流会が開かれていました。

その日の夜突然、ニュージーランドから来日した一人の女性が発言。「皆さん、今日は何の日か知っていますか。今日は43年前、ヒロシマに原爆が落とされた日です。皆で黙祷をしましょう」。ソビエト、アメリカ、ヨーロッパ、アジア、南アメリカなど国家レベルでは緊張感を持つ国々からの参加者一同が手をつないで黙祷。

フェスティバルのにぎわいの中で日本人の私自身が忘れていたことの恥ずかしさ。他方では日本人が過去の歴史として風化させている出来事を、国際的に重い出来事として見られている事実を認識。異なる文化を持つ人々同士の交流、グローバルな視野を養う必要を感じた出来事でした。8月15日を前に必ず思い出す記憶です。

\*\*\*\*\*

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
p05300@tanagawa-seiki.co.jp

木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局

ic1267@city.iida.nagano.jp



## 事業所代表者全体会 行われる

8月18日(木)9時、市役所を会場に地域ぐるみ環境ISO研究会事業所代表者全体会が行われました。2月に行われた全体会以降、マエダ(株)、(有)雨宮印刷が加入し30事業所に。そのうち24事業所の参加がありました。



## 持続的改善活動

### 成果の交流



それぞれの事業所の近況報告では、2004年、ISO14001初めての規格改

定を受けて、一層レベルアップした各社の状況が発表されました。

通常の企業会計とは別に、企業行動が環境に与える有益有害な環境影響を会計的に表す環境会計。八十二銀行ではすでに、国内の金融機関として最初に取り組んでいます。オムロン飯田も研究中です。エコトピア飯田は2006年4月を目標に、南信州いむす21からISO14001へ、レベルアップの準備中。平和時計製作所はシチズン関連子会社8社の共同でゼロエミッションに向けた取り組みを進めています。木下建設は現在問題となっているアスベストの対応のために緊急チームを編成。顧客への調査に入っています。

## ノーマイカー取組み宣言 を一斉に

飯田市役所が事務局となり、域内6事業所で取り組むノーマイカー推進方策研究会。10月に実施するノーマイカー通勤月間への協力依頼があ

りました。地域ぐるみ環境ISO研究会の主旨と合致することから、各事業所ごとに、研究会萩本代表との連名で、「ノーマイカー運動取組み宣言」を行うこととなりました。

文面は以下の通りです。

## ノーマイカー運動 取組み宣言

私たちは、人類史上初めてともいえる存続の危機にさらされています。本年2月16日には、COP3京都会議で採決された京都議定書が発効し、温室効果ガス削減に向け、国ごとの具体的な数値目標を定めた行動が始まりました。

環境省の試算では、1年間で一世帯から発生する温室効果ガスは6tで、そのうち自家用自動車によるものが35%を占めているといわれています。自家用車の利用を減らすことは、温室効果ガスの削減のための有効な手段です。

私たち地域ぐるみ環境ISO研究会は、「地域の自然を残し、持続可能な地域づくりのため、新しい環境改善の地域文化を創造する」ことを理念に掲げ1997年11月に発足しました。

今回のノーマイカー推進方策研究会の提案は、研究会の活動理念と合致するものです。

この提案に賛同し、10月に実施されるノーマイカー通勤月間をきっかけとし、各事業所が創意工夫してノーマイカー運動に取り組むことを、ここに宣言します。

ノーマイカー通勤は、事業所の規模や立地条件によって取り組むことが難しいケースも想定されます。9月の早い時期に実務者会議を開催し、取組み方や結果の集約方法について、研究会としての指針を作ることになりました。

## 南信州いむす21 広域連合の支援強化を



っています。そこに一定の権威を保

南信州いむす21は、研究会が構築し、実務者による運用支援や審査を担

つため、南信州広域連合が認証を行うという関係です。

多くの事業所に広がった取組みが一層の継続的改善につながるために、広域連合の支援体制の強化を期待する意見がありました。広域連合長でもある牧野飯田市長からは、行政として何ができるのか、早急に検討に入りたいという旨の回答がありました。

## 南信州いむす21 レベルアップの 仕組みづくりを

EMSの入り口としては大変有効な南信州いむす21。しかし事業所の取組みが一定の質を満たしたとき、それ以上の取組みにつなげる仕組みが未完成です。かねてから実務者に預けられている課題ですが、システムの階層化、他のシステムとの相互認証など具体的な検討を託されました。

\*\*\*\*\*

「我々の村で毎日たく薪の量は一体どれ位であろうか。600余戸の家々が毎日一束ずつたっているとしたら1年には実に22万束、これは樹齢30年の山にして大体10町歩分に当る。四面山、山、山の本村が見渡す限り赤茶けたはげ山となっている現在の調子で何らの手段も講ぜずにはたき続けたいとすれば？最早や後を語るの愚である」。昭和32年12月5日発行、上久堅村(現飯田市上久堅)公民館報の一節です。

8/11発行の雑誌「たあくらたあ」(川辺書林)第7号では「公民館報から見た戦後60年」という特集が組まれています。冒頭はその記事からの引用です。手の入らない現代の里山事情と対照的な悩みです。他の記事からは、物質的には恵まれていないけれども、家族や隣近所との暖かなつながり、巧みな文章力など、今の時代よりも心の豊かさを感ずります。

戦後60年の今年、戦争や平和の問題を中心に様々な催し、多くの情報発行がされています。地球温暖化防止が世界の最重要課題とされる今日、むしろ高度経済成長期前の暮らしぶりを見直す機会として戦後60年を考える意義を感じるのことができる一冊です。

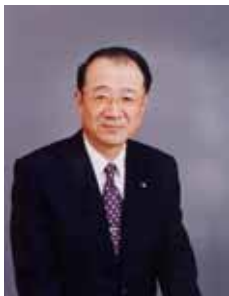


【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 地球温暖化防止活動の 推進について

飯田商工会議所 会頭 伊藤篤



本年2月に京都議定書が発効し、わが国は、温室効果ガス排出量について、基準年比マイナス6%という厳しい目標を課され

ることになりました。

政府は「京都議定書目標達成計画」を策定し、6%削減へ向けた具体的な対策をとりまとめました。しかし、温室効果ガス排出量は基準年比で増えています。目標達成のためには、ライフスタイルの変化など、国民一人ひとりに大きな変革を求めていく必要があります。それは容易なことではありません。

温室効果ガスの排出抑制は、経済や国民生活などあらゆる分野に大きな影響を及ぼす課題です。環境税など経済統制的な手法に頼るのではなく「環境と経済の両立」の原則にたつて、国、自治体、企業、市民などすべての主体が、それぞれの立場で積極的に取り組むことが必要です。

飯田商工会議所では、ISO研究会の皆様にもご協力頂き、地域中小企業の自主的な取り組みを支援するなど、地球温暖化防止活動を積極的に推進していきたいと考えています。

具体的には今後、以下のような取り組みを進めていきたいと考えています。

1. 地球温暖化問題に関する周知・広報の推進
2. 省エネルギー対策実施事例のPRと奨励
3. 地域における省エネルギーの取り組みの促進
  - 1) エコオフィスの実践。
  - 2) 公共交通機関利用の促進。
  - 3) 輸送分野での省エネ対策の推進。
  - 4) 廃棄物の発生抑制、リサイクルの推進などによる資源循環型社会形成への寄与。
4. 電力の生産地と消費地の相互理解の増進

## エスコ説明会のお知らせ

8月25日(木) 午後2時から3時30分、エスコ説明会が行われます。主催はおひさま進歩エネルギー(有)。後援は飯田商工会議所です。

エスコはまず、工場や店舗などに省エネルギーのための総合診断を実施。その結果から、省エネ設備の設置や機器の交換、断熱工事を行うことで、水光熱費を削減する事業です。例えば、従来のハロゲン球の消費電力85Wに対し、直流低圧型ハロゲン球に代えれば1個で3万円のランニングコスト削減につながります。また効率的な空気循環の仕組みを導入すれば、温度ムラがなくなり、少ないエネルギーで快適な環境を整えられます。そんな事業に取り組んで、地域ぐるみの「省エネ」活動に参加してみませんか。

## ナショナルトラスト 全国大会 in いだのお知らせ

自然環境や歴史的建造物や文化など次代伝え、残す市民運動、ナショナル・トラスト。飯田から木曾に抜ける大平街道の中間、標高1200mの高地にある大平宿。かつては宿場として栄え、



1970年集団移住で村の歴史の幕

は閉村。江戸中期の貴重な建造物もあるこの町並みを使うことで保存する。現在は、市民団体「大平宿を残す会」が運営管理しています。「いろいろの里 大平宿 生活原体験の場、春から秋にかけて多くの利用者でにぎわっています。その取り組みが認められ、第23回ナショナル・トラスト全国大会が飯田で開催されます。10月8日(土)9日(日)の2日間、飯田市公民館と大平宿が主会場。

基調講演は全国ナショナル・トラスト保全部長のピーター・ニクソンさんによる「英国ナショナル・トラストの活動について」。記念講演は松川町出身のジャーナリスト、本多勝一さんによる「わが伊那谷の今昔」など、魅力的な内容です。飯田の秋を満喫できる催しです。多くの皆さまの参加、お待ちしております。

[http://www.ntrust.or.jp/action/assembly05/taikai2005\\_tannai.html](http://www.ntrust.or.jp/action/assembly05/taikai2005_tannai.html)

## 保育園で大人気 打ち水大作戦

水道水以外の水を使い、地面に打ち水をし、地球の温度を下げよう。8月10日(水)全国一斉に取り組みされた「打ち水大作戦」。座光寺保育園から便りと写真が送られました。座光寺保育園は本年度6月新築。太陽光発電、ペレットボイラーなどさまざまな環境配慮の設備がつけられています。散水用の雨水タンクもその一つ。今回の打ち水大作戦では、雨水とプール水を使って園児全員が取り組みました。

「『水まき大作戦』と言いながら水をまいている子どもたち。喜びつつ遊び感覚で、気分は涼しくとてもいいです」。実際に園庭の温度も34から32に下がったそうです。保育園ではこの取り組みを8月いっぱい続けるそうです。

子どもたちや保護者へ環境意識を広める効果も大きな取り組みとなっています。



\*\*\*\*\*



「重点は環境・福祉・教育。あの事故を通して危機感を共有した村民の総意で、循環型の地域社会にしていきたい」。1999年9月30日、国内初の臨界事故に巻

き込まれた東海村。村上達也東海村村長へのインタビューをまとめた「見えない恐怖をこえて(那河書房)」。東海村は5月25日から3日間行われた環境自治体会議の開催地となりました。水保市を目標に、負の遺産をバネにまちづくりに力を入れたい。村長自身の21世紀文明のあり方にまで及んだ内容。村長の決意が強く表れた一冊です。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[p05300@tanagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tanagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## パチンコダイエー 若杉社長から飯田市長へ ノーマイカー運動 推進宣言を提出

9月6日(火)、研究会事業所を代表し、パチンコダイエーグループ若杉渉社長から牧野飯田市長に、「ノーマイカー運動取り組み宣言」が手渡されました。これは、10月のノーマイカー推進月間に向けた研究会参加事業所の意思表示です。



パチンコダイエーグループは、2001年2月ISO14001を業界で初めて取得。9000も2004年に取得しています。若杉社長も業界内の環境審査などで多忙な時間をめっての来訪です。

「地球温暖化防止に向けてまったなしの時代。ノーマイカーの取組はCO<sub>2</sub>削減の有効な手段。事業所によってむずかしいところもあるが、創意工夫して取り組みたい」。若杉社長の発言主旨です。

牧野市長からは「研究会参加事業所あげての取り組みの意義は大きい。ノーマイカーの取り組みをきっかけに、地域ぐるみの環境改善運動が一層の広がることを期待している」というエールが送られました。

パチンコダイエーグループのEMSの取り組みは、各支店ごとに進められ、若手従業員が環境リーダー・サブリーダーに指名されています。ノーマイカーの取り組みも、現在検討中。交替勤務で夜12時退社の社員もいることから、取り組むには難しいテーマです。乗り合わせによる出社、昼間勤務者は公共交通機関利用などのアイデアが出され、具体化に向けてまとめているところです。

地球温暖化防止に向けて、無理をせず長続きする取り組みとなることが大事です。今回の宣言をきっかけに、各事業所の創意工夫した取り組みが期待されます。

## JR 利用でリフレッシュ 塚平賢志さんの ノーマイカー通勤

10月に行われるノーマイカー通勤推進月間を前にノーマイカーの取り組みをすでに実践している、研究会事業所の職員にインタビューしました。

「毎日続けること、けれども無理をしなご、それがこつです」。市役所合併対策室に勤務する塚平賢志さん。昨年3月、自宅のある時又から市役所まで、JRの通勤に変更。終電は22時42分。合併直前の今はたいてい21時25分飯田駅発を利用。残業がなければ17時44分発で帰路につけます。

自家用車通勤に比べ、気持ちは楽になりました。車中で音楽を聴いたり本を読むこともできます。毎日の歩く距離も約3km、少し体も締まってきたそうです。環境に対する意識も高くなり、家族全体に歩く習慣が生まれました。家族旅行もできるだけ公共交通機関を利用しています。

出勤時は高校生たちと一緒に、「最初は乗りにくかったけれど、慣れてくれば苦にならなくなりました。ときどき利用するよりは、毎日の習慣にしてしまったほうが楽。けれどもやらなくては、というような無理は禁物。気楽に取り組むことが長続きの秘訣です」。



## 環境カウンセラー日本一 めざしてみませんか

市民活動や事業活動の中で環境についての指導助言を与える資格「環境カウンセラー」。環境省が現在公募中です。

市民活動、事業所などで3年から10年、環境に関する活動に従事することが資格取得の条件。9月中旬に小論文を提出、審査が通ればH18年2月頃東京・大阪で面接審査。3月に合否が決まります。

研究会実務者が行っている南信州いむす21の構築支援の活動も、環境カウンセラーの主旨に一致しています。現在環境カウンセラーは全国で3,894人。このうち飯田市が17人。環境首都コンテスト、上位10

の自治体では広島市(人口115万人)が57人で最多。熊本市27人、飯田市と続きます。人口比では田原市、水俣市、飯田市。

研究会の実務者経験など十分に資格要件を満たします。日本で一番環境カウンセラーの多い地域、人口比で一番を目指して挑戦してみませんか。

<http://www.eic.or.jp/counselor/>

## 利用の促進へ 林務課に間伐材利用の机



飯田市役所林務課長の机が、間伐材利用の木製品になりました

た。製作は後藤製材建設株式会社。南信州いむす21の取り組み宣言事業所です。材料となる間伐材は持ち込みで、組立は後藤製材建設。組立費用だけで比較すると、市販のスチール製事務用机とほぼ同額。木の感触や香りが職場に安らぎを与えてくれそうです。

林務課では間伐材で職員証も実費でありません。間伐材の利用促進の取り組みとしてぜひ参考にしてみませんか。

\*\*\*\*\*

9月27日、北九州で開催された社会教育研究全国集会の分科会「豊かな人と自然との関わりを求めて」に参加してきました。北九州はかつての公害のまち。地味人会が行政を動かす、現在は日本の環境首都を目指して様々な取り組みをすすめています。会場の環境ミュージアムは自然と環境の総合的な博物館。インテプリターという職員が常駐。大人から子どもまで施設を訪れる人たちに積極的な環境学習を提供します。環境問題の解決も、人を育てることから。そういう姿勢を持った施設です。



分科会の途中、竹で有名な合馬地区の竹林公園でフィールドワーク。150種類の竹が植えられているほか、竹製風

力発電装置も。「グラウンドワーク福岡」「NPO法人里山を考える会」などの発表、熱い気持ちと先駆的な活動から、大きな刺激をいただきました。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[p05300@tanagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tanagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 環境負荷低減からの

### 前進を目指して

神稲建設株式会社

代表取締役 原 弘也

神稲建設株式がISO14001を認証取得したのは2002年のこと。「建設会社」にもたれがちな環境負荷のイメージを払拭すべく、社会の環境意識の高まりとともに、遅ればせながらも環境への取り組みに参戦しました。取り組みの第一歩は、やはり紙・電気使用量の削減、産業廃棄物の排出抑制から。これらは自分の業務の中ですぐに行える環境保全への取り組みというところもあり、従業員一人一人の環境への意識向上に大変効果的でした。認証取得から丸3年経ち定着した取り組みとはいえ、従業員誰もが出来るこうした活動は今も重要な取組の一つです。しかし環境負荷を低減していくことは今や企業にとって重要な社会的責務。当社環境方針に掲げているように「積極的に環境保全活動に取組むべく、近年から環境に有益な活動を環境目標に取り上げています。県の産廃減量化・適正処理実践協定の締結。産廃を資源としてリサイクルするよう具体的な数値目標が掲げられました。土壌汚染処理工法の施工、アスファルト工場と提携した木質チップ使用の舗装工事、木炭を利用した断熱塗料の採用、既存給水管の殺菌洗浄工法の施工など。環境に配慮した設計・工法を多く採用すべく、皆様にご提案させていただいています。神稲建設株式会社として環境を重視した地域づくりにいかに貢献できるか、環境ISOの取り組みとともにこれからも模索していきたいと思っております。



社名の由来となった豊丘村神稲の田園

## ノーマイカー運動推進 に向けて

### 実務者会開催

9月7日(水)実務者会が行われました。8月18日の代表者全体会で、各事業所ごと、ノーマイカー運動取り組み宣言を行うことが決まりました。ノーマイカー月間にむけた、具体的な取り組み方を中心に話し合いが行われました。



研究会に参加している事業所の多くが郊外に立地しています。また現場に直接出勤するケースも多いことから、実施するには難しい課題。多くの事業所で共通しています。徒歩や公共交通機関利用の他、自転車の貸与、相乗り通勤、バイク利用への切り替えなど、事業所ごとに進めている検討の状況を交換しました。JRの駅から会社まで、近隣の事業所と合同で通勤バスを走らせる研究を進めている事業所もあります。

ノーマイカー運動の目的は、地球温暖化を防止するためのCO<sub>2</sub>削減。結果が数値で表れるような取り組みを進めるために、参加者ごとにノーマイカー通勤の距離を積み上げることのできる集計表を作成することになりました。ノーマイカー通勤は難しい。そういう事業所、従業員でも、仕事や家庭で自家用車を使わない取り組みを進めることも含め、月間に参加できるしかけも考えました。

### 生活と環境まつりに参加 里山作業と木の実とり

11月5日(土)、6日(日)鼎文化センターを中心に「生活と環境まつり」が行われます。今年も研究会として参加します。企画の中心は間伐材や木の実を使ったクラフト細工。そのため間伐作業を10月29日(土)に行います。山仕事は大変ですが、森の中は心が安まる空間。汗した後のも格別。多くの皆さんの参加、お待ちしております。どんぐりなどの木の実も使います。木の実集めもぜひご協力ください。

## 南信州いむす21

### レベルアップのPJを

長年の懸案、南信州いむす21のレベルアップ。プロジェクト体制で研究を始めることになりました。現在メンバーは選考中。地域独自のEMS、南信州いむす21の新たな展開が期待されます。

### 地球温暖化防止セミナー

### 「エネルギー資源争奪時代 の省エネルギー」 のお知らせ

アメリカを襲ったハリケーンの追い打ちで、原油価格が一層高騰の兆し。化石燃料依存社会の限界が近づいています。エネルギーの大量消費は、地球温暖化をすすめる原因。省エネルギーという視点から、先進国に住む私たちが取るべき道を考える。9月16日(金)「エネルギー資源争奪時代の省エネルギー」をテーマに、地球温暖化セミナーが行われます。時間は18時30分。

会場はりんご庁舎3階会議室。参加費無料。講師は東北大学教授、環境保全センター長の三浦隆利さんです。申し込み、お問い合わせは主催の2団体へ。

NPO 法人南信州おひさま進歩 (0265-24-4821)

NPO 法人同グリーンクラブいいた (0265-56-8311)

\*\*\*\*\*



「時空戦隊コセキッコ」(戸籍事務の指南書、五輪書となるマニュアルづくり：大庄支所市民課)。「分別隊ゴミワケルンジャー」(保育所だけでなく、家庭をまきこんだ「エコ

ライフ」活動)。「ゲッツ」OB(生活相談者への求職支援)。兵庫県尼崎市の職場改善運動発表大会「YAAるぞカップ」。受賞グループのネーミングです。9月2日(金)愛知大学豊橋校舎で「日本の環境首都コンテスト中部地区交流会」が行われました。冒頭はゲスト参加、尼崎市職員、吉田淳史さんによる報告の抜粋。

環境首都コンテストは、環境に関わる政策だけでなく、自治体の組織や意識改革、市民参加の進み具合など、NPOが多面的に自治体を評価するしくみです。環境を入り口に自治体を改革する。そういうきっかけとして環境首都コンテストを活かす。今年もエントリーの時期となりました。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局

[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局

[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 企業視点を持った参画も 第5次基本構想

### 職員WG スタート

平成19年度を初年度とする、第5次基本構想策定に向けた、職員ワーキンググループの作業がスタートしました。メンバーは20代から40代の若手中堅職員23人。10月には市民検討会議も立ち上げ、市民参画による検討が始まります。

8月31日は牧野市長による、「市長の地域観、歴史観及び価値観」をテーマとした講演会が行われました。



市長の地域観、歴史観及び価値観をテーマとした講演会が行われました。

## 牧野市長の講演から ドイツに近い飯田

牧野市長は日本政策投資銀行在職中、4年2ヶ月ドイツに駐在。小さくても、市民一人ひとりが誇りを持ち、誇りを守るための努力をしているドイツの地方都市。飯田はそういうドイツに近い風土がある。他の地域の企業人から、飯田に企業立地する経済的メリットを問われた。その問いに対し、地域に住むことを大事にした産業人となる必要と答えた。マーケットの中でしか人は行動しないという、マーケット至上主義とは異なる価値観を作っていく。それが持続可能な地域社会づくり。飯田は日本で最初に実現することが可能な地域である。

## 特徴的な地域、飯田の強み

飯田の特長と強みは3点。一つは多様性に支えられた進取の気質。山里とまちという暮らしの多様性。作物の南限北限が交錯する植物の多様性。多様性が共存することで異なる考え方を受け入れる風土が育つ。米の単作地帯である富山。考え方も画一的になりやすく、画一的な固い殻を打ち破るためのバイタリティが求められる地域。富山から世界に発信する光岡自動車の社長は、火の玉のような人。飯田はしなやかな進取性を持つ人たちが多く存在する。

2点目は災害と貧困を繰り返してきた歴史。多摩川精機創業者の故萩本博市氏は、「創業者はこの地域の貧困」であるという。水引や製糸業も殖産産業として育ってきた。自分たちの地域は自分たちでつくる、自主自立の風土を官民一丸となって育んできた。

3点目は地域の一体性。中央アルプスと南アルプスに囲まれた南信州。広域連合が最も機能しているのは北海道と南信州、という総務省課長の発言もある。

## 自立のストックを形に

ケフィアという企業を誘致できたのは、住む場所としての飯田に魅力を感じてくれたことが大きい。21世紀産業といわれるITや環境。中央でなくても仕事はできる時代。住む場所の選んで仕事ができる。飯田は隠された桃源郷。住みたい人を増やしながら経済自立度を高めていきたい。



飯田市役所には「でもしか」ではない、問いに対して付加価値をつけて返すことのできる職員が多い。飯田には自立に向けたストックはある。地方分権がいわれる時代は、我々にとって陽のあたる時代。職員一人ひとりも外に向けて発信するセールスマンとしての自覚と行動を期待している。

## 地域を次世代に渡す

先人たちの血と汗で培われてきたこの地域。企業、市民、行政が協働することのできる国内希有の地域。この地域のDNAを子ども世代に受け継いでいく。「我々の身近な地域をよくすることが、社会全体をよくすることである」。ドイツで学んだ考え方。これからの基本構想というシナリオをづくりに期待している。

基本構想の策定に向けた市民会議は10月に発足予定です。経済自立度を高めるための官民の共同も大きなテーマ。企業視点を持った市民参加が求められます。研究会参加事業所からもぜひ参画してみませんか。

## 日独の実践例に学ぶ 「文化経済自立都市」

### 日独国際化サミット開催

ドイツの環境首都フライブルクを目指そう。環境市民などNPOが主催する環境首都コンテスト。飯田市は2001年第1回から継続的に参加しています。飯田と同じ規模の地方都市が文化的にも経済的にも自立しているドイツ。持続可能な地域社会づくりの先進国です。

10月6日(木)、7日(金)、飯田市公民館などを会場に、日独地域国際化サミットが開催されます。「地域への誇り」「魅力ある地域づくり」「地域経済活性化」「地域経営」テーマです。既に各地区単位で事前学習会も進められています。

詳しくは飯田市工業課HPをご参照ください。

<http://www.city.iida.nagano.jp/kougyou/>

\*\*\*\*\*



「定年前に退職し、仕事としました。経済的には厳しいが、やりがいがあります。」NPO法人、グラウンドワーク福岡理事、大谷妙人さんの発言です。グラウンドワーク

活動はイギリスで始まった環境改善活動です。環境を出発点に福祉、国際交流など幅広い分野で、住民・企業・行政をつないでいく。グラウンドワーク福岡の活動主旨です。日本では静岡のグラウンドワーク三島も知られています。

福岡県職員の有志が中心となって出発。大谷さんも3月まで県職員でした。「音の出るせせらぎづくり」「成長する木製作ワークショップ」「中庭づくりワークショップ」「秘密基地作り」「宇宙から見た地球は笑顔ですか」など学校や子どもたちも巻き込んだ魅力あるとりくみがいっぱい。第2の人生で皆の役に立つ活動を歩みたい。私たちに對する熱いメッセージを感じました。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 建設業界を

### ISO14001 の牽引役に 木下建設の取り組みから

9月20日(火)木下建設株式会社の環境管理室長を務める総務部長、松村勝弘さんにお話を伺いました。



木下建設は大正2年創業。今年で92年目を迎える総合建設業です。ISO14001は2001年4月に認証取得。2004年の規格改正にあわ

せて環境マニュアルも3月に改正しました。松村さんはシステム構築時からの関わりです。

今回のマニュアル改正で特に留意したのは「リスクマネジメント」。ISO14001でも緊急事態への準備及び対応は最も大事な要求事項です。「汚染の予防のような環境側面は当然。しかし企業にとっては経営上のリスクマネジメントの一環として捉えることも重要」。松村さんのことばです。

地球温暖化が異常気象に結びつき、災害が企業活動に直接影響を及ぼす時代。市民の環境意識の高まりは、一つの事故が会社の信用、引いては経営にまで影響するケースも想定されます。ISO14001の運用を通し、様々なリスクに対応できるように企業の体質を強める。ISO14001が企業経営に不可欠なものになることで経営改善に結びつける、という狙いを持っています。

「機械による騒音、振動、排気ガス。建設業界の環境にかかわるイメージはマイナス。その分建設業界は環境改善に苦心している。建設業界こそが環境問題の牽引役」。このことばが印象的でした。

## 昔の暮らしに戻す時代

### 環境会議所東北 三浦隆利さんの講演から



「地球温暖化を防止する根本的な解決は、暮らし方を昔に戻すこと」。9月16日(金)、りんご庁舎を会場

に、地球温暖化セミナー「エネルギー資源争奪時代の省エネルギー」が開催されました。冒頭は講師の三浦隆利さんのことばです。三浦さんは現在東北大学教授、環境保全センター長。NPO 法人環境会議所東北の代表理事も務めています。環境会議所東北は、独自の環境マネジメントシステム「みちのく EMS」、高校生たちの環境問題への取り組みを表彰する「環境甲子園」などユニークで先進的な活動を進める日本初、環境専門の商工会議所です。現在105の企業が参加。三浦さんはこれまで何度も飯田を訪れ、講演もされています。

「成長」を続ける世界。成長に併せてエネルギーの使用は増え続け、CO<sub>2</sub>などの地球温暖化ガスも増え続ける。一方化石燃料の枯渇は目前に迫り、新エネルギーが既存のエネルギーに代替する見通しは見えない。まずは一人ひとりが自分たちの暮らしの中で、省エネルギーを進めること。そしてそういう暮らしを進めるための教育にもっと力を入れること。高度経済成長期前のかつての暮らしに立ち返ることを目指す。今回の講演主旨です。

京都議定書が発効しましたが、実態は基準年比8%の増。これからの7年間で14%の削減が必要です。

京都メカニズムといわれ、第3世界の温室効果ガス削減を積極的に支援することで自国の数字にカウントする排出権取引。しかしいつ

かは第3世界も温室効果ガスの削減は義務づけられます。

一方2050年には石油の枯渇が予想され、代替手段として期待される新エネルギー。しかし世界の経済成長率は中国を筆頭に伸び続け、エネルギーの使用量はこれからも増え続けれます。

これからの時代、最も大事な課題は省エネルギー。市民生活では省エネルギーのライフスタイルを広め、企業では環境に重点を置いたマネジメントシステムを広げる。それ

らの活動を通して省エネルギーを進めることが一番大事。

交通手段を比較。1人を1km運ぶためのエネルギーは鉄道が100(209kj)とするとバスが321、飛行機950、海運1,061、乗用車1,181。公共交通機関を利用することは省エネ効果もがとても大きい。

現在はエネルギーの争奪時代。一人ひとりの暮らし方、生き方が問われる時代。環境問題に対する市民や企業、個々人の継続的改善の輪を広げる。そのことが、社会全体の意識やしくみを変えていき、省エネルギーの暮らし方を当たり前にする。

一人ひとりが持続可能な地域社会づくりに向けて新たな一歩を踏み出す必要を、考える機会となりました。

## イクレイ日本 浜中理事長来飯

イクレイ(ICLED)は、持続可能性をめざす国際的な自治体のネットワークです。地域発で持続可能な開発。そのための支援を進める組織です。1990に発足し、現在世界中で460を越える自治体で構成されています。国内では滋賀県、京都市、板橋区など22の県市区が加入。

9月6日(火)、イクレイ日本の浜中裕徳理事長と小川内浩文主任研究員が飯田市を訪れました。飯田市の



環境政策現場の視察のあと、牧野市長と懇談。地域ぐるみ環境ISO研究会の活動

南信州 いむす 21 の取り組みについても説明の機会をいただきました。

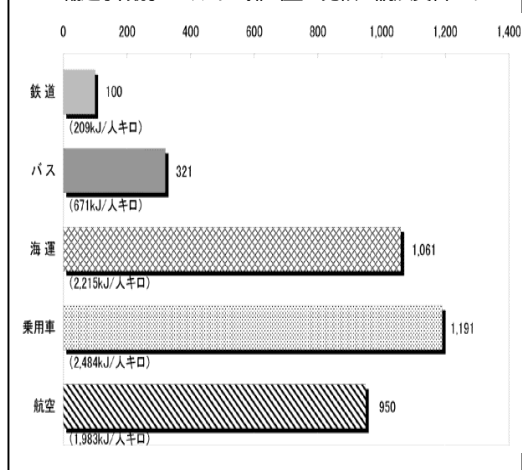
地域が先導役となることで、国や世界全体の持続可能な社会の実現のためにもっとも有効な方法。イクレイの基本的な考え方です。持続可能な社会づくりに向けた国内外のネットワークが一層広がることを期待されます。以下はイクレイ日本HP。

<http://www.iclei.org/index.php?id=875>

毎日片道2.5kmの自転車通勤。車の通らない路地を選び、気分次第でコースを変更。田んぼや畑、花や昆虫など季節の移り変わりを肌で感じています。10月のノーマイカー通勤推進月間。楽しみながら無理をせず、次につながる活動となることを祈念します。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局  
[p05300@tanagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tanagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)

輸送手段別エネルギー排出量の比較：講演資料より





## 道路美化功労賞を受賞 吉川建設の取り組み

吉川建設株式会社

代表取締役 吉川光國

りんご並木の清掃、空き缶・ごみ拾い。当社の奉仕活動が、8月10日道路の日に、(社)日本道路協会から道路美化功労の表彰をいただきました。



この取り組みは、飯田市のシンボルである街路を清掃することで、地域の美化に貢献しようと、1994年4月、社員の発案で始まりました。作業を通じて社員一人一人の意識の中に「道路をもっと大切に」「ゴミのポイ捨ては止めよう」という気持ちが根付き、道路施設保全や環境への関心が高まることを期待しています。

また、通勤者や近隣の皆さんにも見知って頂くことで、清掃作業を始めた頃に比べ年々ごみの量も減ってきています。

この他、天竜川環境ピクニックや天竜川水系健康診断などにも参加しています。原点は伊那谷が育んできた豊かな自然を守りたいという思い。企業として住人として環境への関心を高めてもらうため、自主的な参加を募って取り組んでいます。

環境ISOは、2001年に認証取得、維持と改善に努めています。電気、用紙の節約は、社員全員がすぐ取り組むことのできる目標とし、統計をとり、その結果を掲示して、社員意識の向上を図ってきました。また、建設廃棄物の削減とリサイクル率向上の方法を各工事ごとに検討し、計画的に実行しています。

認証取得4年、これからは土木・建築構築物の提供会社として、工事毎に重要な環境側面を特定し、環境目標をクリアする活動に重点を置き、真に地域やお客様に安心していただけるようさらに環境活動を推進していきたいと考えています。

住宅・店舗等の建築設計について、省エネ・省資源の提案を用意しています。また、現在社会的問題となっている石綿(アスベスト)対策や土壌汚染の調査なども、相談をお受けしています。どうぞお気軽にお声がけください。

## 新飯田市発足 南信濃、上2村を迎えて

「遠山郷(とおやまごう)。この豊かな山の響きそのままに、ここには自然と共にある生活が息づいている。幾重にも重なり合う山々、そして青く澄んだ空。南アルプスから流れ出す水が作り出す美しい渓谷。この地に残る手つかずの自然は、人びとの営みを静かに、そしてやさしく見守っている。この地を訪れ、愛した人も数多い。遠山郷の自然やひとの営みは、訪れる人暖かく包み込んでくれる」(広報いいた 2005年10月1日、合併特集号より)



日本のチロル上村下栗の里

10月1日、かねてから準備が進められていた南信濃村、上村を加え、新しい飯田市が発足しました。新飯田市は人口108,324人、面積658.76km<sup>2</sup>。人口で2,878人、面積で336.41km<sup>2</sup>の増。都道県面積最少の香川県面積1862.01km<sup>2</sup>の1/3強。静岡県浜松市と境を接することになりました。

南信濃、上西村は南アルプスと伊那山脈にはさまれた遠山谷にあります。毎年12月から1月にかけて、両村内各地で霜月まつりが行われます。国の重要無形文化財にも指定されたこの祭。「千と千尋の神隠し」の宮崎駿監督は、千尋の発想の原点として、この祭から強い影響を受けたといわれます。

豊かな緑と民俗文化に恵まれた2村との合併は、飯田に新たな財産を与えてくれました。これらの財産を活かした新たなまちづくりがはじまります



遠山渓谷と遠山川

## 文化のかおりを体感 合併記念式典 アトラクション

10月1日、飯田文化会館を会場に3市村関係者約700人が集い、合併記念式典とアトラクションが行われました。

式典では、両村の小学生たちから、村や学校活動が紹介されました。上村小学校では、遠い子どもで8kmのスクールバス通学をしています。運動会は地区運動会と合同、一年で最大の行事です。南信濃村は日本のお茶の北限。子どもたちも事業の一環で茶摘み体験をしています。学校をあげてサービスセンターの老年寄りたちとの交流も進めています。可愛い子どもたちによる村の紹介で、会場も和やかな雰囲気となりました。

式典のオープニングは、飯田市上郷黒田に伝わる伝統人形芝居、黒田人形の三番叟。式典終了後に行われたアトラクションでは、南信濃和田小学校の子どもたちや、上村と小山霜月まつり保存会による霜月まつりの実演と、飯田馬料の鈴岡太鼓の演奏。この地域の歴史と伝統に裏付けられた文化のかおりを思いきり感じる事ができました。



和田小児童による霜月まつり「ふみならしの舞」

\*\*\*\*\*

「不要なアイドリングをやめよう」「タイヤの空気圧をチェックしよう」「不要な荷物を降ろそう」「暖気運転は適切に」「急発進急加速はやめよう」「車間距離は余裕をもって」「エンジンブレーキを積極的に使おう」「駐車場所はよく考えて」「夏のカーエアコンの設定は一度高めに」「計画的にドライブをしよう」。「JAFホームページに「誰にでもできるエコドライブ」が紹介されています。

いよいよ10月はノーマイカー推進月間、各事業所の創意工夫した取り組みが期待されます。通勤の取り組みがむずかしくても、仕事や家庭で自動車を使うときの工夫も大切。家庭で排出する温室効果ガスの35%は自家用車から。この月間をきっかけにエコドライブにも挑戦してみませんか。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)





## 環境新聞で意識づくり ノーマイカー通勤 夏目光学の取り組み

「ノーマイカー通勤を進めるときに大事なことは、社員一人ひとりの自主的な参加意識。地球温暖化防止に向けた一人ひとりの意識や行動の変化をねらい、「環境新聞」を発行しています」。

夏目光学(株)は、レンズの分野で世界的にもトップを走る企業です。研究会には今年1月に加入しました。

昨年11月からノーマイカー通勤を推進してきました。マイカーで通勤する社員の全車から排出されるCO<sub>2</sub>を6%削減することが目標です。

ISO14001のシステムでノーマイカーを目標に掲げるばかりでなく、社内規定に「交通費の実費支給」「2km未満自家用車通勤不可」を盛り込み、会社をあげて積極的な取り組みを進めています。



電車通勤の様子

環境新聞は2004年12月の創刊以来5号発行されています。地球温暖化のメカニズム、私たちの暮らしに対する影響、温暖化防止のために自分たちができることなど、環境にかかわる様々な情報が全社員に伝えられます。

環境新聞を通じた意識づくりの成果が、積極的に取り組む社員も徐々に増えています。ノーマイカー通勤者の増加による駐車スペース削減を経費の削減につなげながら、周辺緑化を進めることもねらいです。研究会として取り組むこととした10月のノーマイカー通勤推進月間には、従来の取り組み強化に加えて「家庭でのノーマイカー」「家庭での地球温暖化ミーティング」を展開します。ノーマイカー通勤に参加する社員が更に増えることで、環境改善に取り組むことが当たり前な企業風土をつくっていく。継続的な改善は続いています。

## 市民なしでは進まない ドイツのまちづくり 日独地域国際化サミット



ウルグ市副市長

6日(木)7日(金)、飯田市で日独地域国際化サミットが開かれました。冒頭はドイツから訪れた、ウルグ市副市長、アレキサンダー・ヴェツィヒさんのことばです。ウルグ市はライン川のほとり、人口11万5千人の地方都市です。

文化的にも経済的にも自立した、持続可能な地域社会を創る。そのために必要なことは何かを学ぶ、このサミットの目的です。

ドイツウルグ市からは都市計画専門家のマックス・シュテムスホーンさんが学生とともに来日。「私たちはヨーロッパ流の考え方を押しつけてきたのではありません。地域の魅力や可能性を引き出すお手伝いに来たのです」。学生とともに3日間、中心市街地の課題を歩きながらのワークショップ方式で調査・分析しました。前述のシュテムスホーンさんのことばが印象的です。

国内からも先進的なまちづくりで知られる後藤国利臼杵市長(大分県)、富塚陽一鶴岡市長(山形県)らが参加。「市役所に求められる自覚、行動、響働」「ブレイクスルーで先例踏襲と決別」「地域おこしのキーワードは『発見』『残す』『感動』『循環』」など後藤市長の発言が心に残りました。

市内18地域すべてで行った事前学習会。高校生を対象とした「地域への誇り」「ドイツの食文化を味わう交流会」「地域経済の活性化」など多様で一味違う企画の数々。通訳までもこなしてしまう実行委員。市民主体の実行委員会の底力を実感しました。

まちは市民が創るもの。自治体や自治体職員はその支え役。市民・企業と自治体が同じ課題に共同で取り組む。そのためには、特に自治体や自治体職員の意識や行動の大きな変化が必要。そんなメッセージを感じることのできる機会でした。

「ゴール直前に出された市民からの異議。その意見を受け容れたことで、よりよい計画となり、誰も反対する人がいなくなりました」。

10月6日(木)7日(金)、飯田市で日独地域国際化サミットが開かれました。冒頭はドイツから訪れた、ウルグ市副市長、アレキサンダー・ヴェツィヒさんのことばです。ウルグ市はライン川のほとり、人口11万5千人の地方都市です。

文化的にも経済的にも自立した、持続可能な地域社会を創る。そのために必要なことは何かを学ぶ、このサミットの目的です。

ドイツウルグ市からは都市計画専門家のマックス・シュテムスホーンさんが学生とともに来日。「私たちはヨーロッパ流の考え方を押しつけてきたのではありません。地域の魅力や可能性を引き出すお手伝いに来たのです」。学生とともに3日間、中心市街地の課題を歩きながらのワークショップ方式で調査・分析しました。前述のシュテムスホーンさんのことばが印象的です。

国内からも先進的なまちづくりで知られる後藤国利臼杵市長(大分県)、富塚陽一鶴岡市長(山形県)らが参加。「市役所に求められる自覚、行動、響働」「ブレイクスルーで先例踏襲と決別」「地域おこしのキーワードは『発見』『残す』『感動』『循環』」など後藤市長の発言が心に残りました。

市内18地域すべてで行った事前学習会。高校生を対象とした「地域への誇り」「ドイツの食文化を味わう交流会」「地域経済の活性化」など多様で一味違う企画の数々。通訳までもこなしてしまう実行委員。市民主体の実行委員会の底力を実感しました。

まちは市民が創るもの。自治体や自治体職員はその支え役。市民・企業と自治体が同じ課題に共同で取り組む。そのためには、特に自治体や自治体職員の意識や行動の大きな変化が必要。そんなメッセージを感じることのできる機会でした。

## おひさま発電所 オープニング 記念セレモニー開催

志にたいして投資する。趣旨に賛同する人たちから出資を募り直接に資金を集める方式、市民ファンド。

飯田市内38の保育園や公民館などの公共施設の屋根を借りた市民ファンドによる太陽光発電所。その完成を祝い、日本全国から出資者が集うオープニング記念セレモニーが行われます。

市民出資による太陽光発電所は、日本初の取り組みです。置千畳分、208kwの出力量です。

10月29日(土)午後1時から3時まで、会場は飯田市公民館です。

明星保育園児による太鼓演奏、完成記念碑の見学のほか、ゲストとしてWWB/ジャパン代表の奥谷京子さんをお迎えしたミニ講演も行われます。

WWB/ジャパンは、女性の社会的経済的な自立を支援する組織として1990年に誕生、現在は地域や社会の中で役に立つことを仕事とする、コミュニティビジネスのさがりけとして注目されています。学生たちの起業など、全国で魅力的なビジネスづくりの支え役として活躍しています。

セレモニーは参加自由。いっしょに参加してみませんか。

<http://www.ohisama-energy.co.jp/>

セレモニー終了後、3時から4時30分まで、飯田市公民館で行われる、奥谷京子さんの講演会のテーマは「コミュニティビジネス最前線～新しい仕事づくりの現場から」。参加費500円。申込み不要。託児付き(要事前申込み)。こちらの照会にはNPO法人和楽(0265-22-0912)まで。

\*\*\*\*\*

昨日の帰り道、自転車に乗っていると、通りすがりの人がお連れ合いに「このごろ自転車に乗る人が多いわね。なんでかしら」の一言。ノーマイカー通勤推進月間が少しずつ浸透しているのかな、と少しうれしい気持ちになりました。

過日出張で京都に行ったときも、会場と宿の間、5kmくらいの距離を歩きました。無理せず楽しく健康的に、通勤以外でも実行してみました。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局  
p05300@tanagawa-seiki.co.jp  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
ic1267@city.iida.nagano.jp



さんぼちゃん



## 循環社会を求めて

株式会社 原鉄 環境事業部  
リサイクルシステム営業部  
専務 原 利尋

今を去ること 11 年前、当時 2 名のスタッフで発足した当社リサイクル事業部の変遷をお話しながら現状取り組んでいる食育の問題を皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。



生ゴミ処理機

当初は家庭用生ごみ処理機の販売をメインに行って

いましたが、やがて学校等の施設対応で大型の処理機を開発するに依り、機械処理された生ごみを農地・花壇等の土に堆肥として還元する為の処理施設を造るに至りました。

現在、松川で稼働している施設で製造している堆肥は年間約 320 m<sup>3</sup>。

販売もしておりますが、その多くは業務用処理機を使用して頂いている多くの保育園・小中学校・又各種老人施設へ戻させて頂いています。

花壇コンクールで受賞されたり、子ども達あはるいはお



年寄りが自分達の食べる野菜を畑で作ったりしている話もよく耳にします。

土にまみれ、虫に驚かされながらも自分達が口にするものの本当の姿を知ることでしょ。

健全な精神は健全な肉体に宿ると言われますね。

体を作るもととなる食べ物が少しでも安全なものである為にはどうしたらいいのでしょうか？

当社から提案できることは今はその一部にしか過ぎませんが、多くの人の知恵を集めて将来に備えなければいけない。

もう、そんな時が来ているような気がします。

今年も当社の堆肥を使った「はらぺこ米」が出来ました。

※食味 80 ※たん白 5.2

天候にも恵まれ、上々の出来となりました。お米に取り組んでようやく 2 年目の秋です。

\*株式会社原鉄は、ISO9000 を建設機械レンタル業界では日本で初めて取得。建設・環境・リサイクルの分野で活躍している総合商社です。

## 持続可能な地域を 支援する制度を考える ナショナルトラスト 全国大会 in 飯田

「仕事が終わると皆で集まり家を修復。そして一杯飲んで語らって



日本ナショナルトラスト協会  
愛知和男会長

朝帰り。文化遺産を残そうという気持ち以上に、仕事にはない充実感がありました」。大平宿を残す会初代会長、勝野順が取り組み初期のことをこう話してくれました。

大平宿は飯田から木曾に抜ける途中、1,100m の高地にあります。昭和 45 年集団離村で無住に。古くは江戸時代中期の建物 10 数戸が今も残っています。大平宿を残す会は、この集落を使って残そうと「大平方式」といわれる方法で保存活動を進めています。

10 月 8(土)9(日)、大平宿の残る南信州飯田の地で、第 18 回ナショナルトラスト全国大会が行われました。ナショナルトラストは、歴史的な遺産や自然を市民の力で保存しようという運動です。飯田大会は、ナショナルトラスト発祥の地、イギリスからもゲストを迎え、全国から 100 名を超える活動家の参加で行われました。



英国ナショナルトラスト  
ピーター・ニクソン保全部長

イギリスからは英国ナショナルトラスト協会保全部長、ピーター・ニクソンさんを迎え、「英国ナショナル・トラストの活動について」をテーマに基調講演が行われました。

イギリスのナショナル・トラスト運動は 19 世紀に誕生、現在では 340 万人の賛助会員と、5,000 人の有給スタッフ、4 万 3,000 人のボランティアが関わり、国内の文化遺産や自然環境の保全に取り組んでいます。

イギリスではトラスト運動の寄付を行うと、寄付の倍額の金額が行政から交付されるなど、トラスト運動の広がりを政府が積極的に支援しています。

飯田大会の主要テーマは「いろいろの里で考える税制と法制度」。夜は大平宿での懇親、翌日の記念講演は地元出身のジャーナリスト本多勝一さんの講演。

市民主体で運営された、非常に中味の濃い大会でした。

## 新たに 3 社に登録証 南信州いいむす 21

10 月 14 日(金)、牧野光朗南信州広域連合長から松島産業株式会社、株式会社丸中中根園、株式会社ダイマルの 3 社に、南信州いいむす 21 の登録証が交付されました。



松島産業は新たな登録事業所。主な仕事はプラスチック包装材料の製造販売です。廃プラスチックの減量化やリサイクルなどに取り組んでいます。丸中中根園とダイマルは 2002 年 9 月に登録、今回は継続登録です。丸中中根園の主な業務はお茶の小売り。葬儀返礼品などの簡易包装に積極的に取り組んでいます。ダイマルの主な業務はカラオケなど音響機器のリースレンタル・販売、補聴器の販売修理。節電による CO2 の削減、営業車両のエコドライブなどに積極的に取り組んでいます。

「南信州いいむす 21 は、できることから始めて、段々にレベルアップしていくことを目指しています。新規登録の方はもちろん、継続登録の皆さんもぜひ新鮮な気持ちで取り組みを続けてください。そして 10 月はノーマイカー通勤月間。この運動にもぜひ協力してください」牧野連合長のことばです。

南信州いいむす 21 は現在、取り組み宣言 198 事業所、登録 48 事業所となりました。

\*\*\*\*\*  
ゴトウムシ(カミキリムシの幼虫)、ヒビ(蚕のサナギ)、アシナガ(蜂の子)、かつての南信州では貴重な営業源、子どもたちの大好物として食べられてきました。



「本多勝一はこんなものを食べてきた(七つ森書館)」は週刊金曜日に連載された堀田あきお、堀田佳代氏による連載をまとめたものです。ナショナルトラスト全国大会記念講演講師の本多さんは、地元松川町出身のジャーナリスト。自宅で大事に飼っていたウサギも、お祭りごとの際には食卓に。自分たちの食べているものの姿や、生態が見えていた時代、食べた生き物に生かされている、私たちの忘れてしまっていることを改めて気づかせてくれる一冊です。

【ご意見、お問合せ】、【問い合わせ】

沢柳俊之(多摩川精機機) 研究会事務局  
[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)

木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局

[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 里山作業、好評！ につき再び

10月29日(土)午前、竜丘桐林、白井原の里山で間伐材の切り出しを行います。7月に続いて2度目となるこの作業は、11月5(土)、6(日)に行われる「生活と環境まつり 2005」の準備もかねています。

生活と環境まつりでは、今年も間伐材やドングリなどの木の実を使ったクラフト工作教室を行います。間伐材の切り出し作業は、クラフト細工の材料調達が目적입니다。



作業を行う竜丘白井の里山

森のかおりは私たちの気持ちを落ち着かせる効果があるといわれます。夏の大平宿、子どもたちのキャンプで「夜は友だち」というネイチャーゲームを行ったことがあります。深夜の森の中に子どもたちを10m間隔でひとりぼっちにさせました。最初は怖がっていた子どもたちが10分ほどするとほとんど寝てしまいました。「森に抱かれる」というのはこのことをいうのでしょうか。

森の作業でリフレッシュしたあとは、焼き肉会も計画しています。

8時30分 JR 時又駅発、8時40分ドライブイン開善路経由、マイクロバスで現地に向かいます。作業は9時から11時頃まで、焼き肉会は14時終了予定です。

家族や友だちと誘い合って、心地よい汗をかいてみませんか。

申し込みおよび照会は各事業所研究会実務担当者まで。多くの皆さんの参加、お待ちしております。

クラフト細工に利用するドングリなどの木の実も集めています。市役所



1階には募「どんぐり」箱を用意してお待ちしています。皆様のご協力、お待ちしております。

## すべての施策に 環境配慮を 環境自治体(エコシティ)の 実現に向けて



笠松上勝町長

「日本では今、廃棄物に関する法律が乱立している。すべての「ごみ」を事業者が有料で回収しなければならぬ「資源回収法」に法律を一本化することを提案したい。徳島県上勝町、笠松和市町長の発言です。

10月11日(火)12(水)京都市で「第6回環境自治体(エコシティ)を創る、市区町村長と環境NGOの戦略会議」がおこなわれました。

当日は18自治体、11の環境NPO、3大学・研究機関から70人が参加、市町村長も11人が参加し、熱心な議論が交わされました。

「人口減少、高齢化などの続く現代は、自治体もダウンサイジングの時代。一方



西寺多治見市長

地球温暖化は待ったなしの状況。環境問題を大きな柱におきながら、自治体の総合計画を考えていきたい。市民参画で優れた政策を次々と打ち出している岐阜県多治見市、西寺雅也多治見市長の発言です。

多治見市では翌年以降の施策立案段階に、一般的には財政、企画部門が行うヒアリングに環境課も加わっています。ISO14001、2004改定で、いわゆる「紙・ゴミ・電気」から適用範囲は広がっています。従来の縦割り行政の弊害を変え、総合的に施策を評価する。そしてそこに環境配慮を加える「環境政策の総合化」。多治見市の取り組みは環境ISOの先進的な取り組みといえそうです。

特区制度を有効に使い、経済自立や観光誘致に成功している内子町。環境分野でもエコロジータウンをテーマにさまざまな仕掛けを作っています。

共通する成功の秘訣は市民主体。日本の環境首都に向けて、市民・事業者、行政が一体となって取り組む、そんな気持ちを新たにすることのできる機会でした。

## 飯田市環境協議会 新エネ省エネ企画を募集中

「環境と経済の好循環のまちモデル事業」(通称まほろば事業)。飯田市は昨年度から3年間、環境省の指定を受けました。すでに南信州おひさま進歩有限会社による市民出資を募った「市民共同発電」「エスコ」事業の取り組みなどが始まっています。

9月20日「省エネ、新エネ地域計画の推進や、ゴミの減量など」幅広い環境活動を進めるための、市民、事業者、行政などのパートナーシップ会議である、飯田市環境協議会が発足(仮称ie地域協議会改め)しました。

これからのまほろば事業の実施にあたり、市民・事業者提案による新エネ省エネモデル事業を公募することになりました。公募の中から事業を選び環境省に提案、国からの交付金を活用して事業を進めます。

事業所の新增改にあわせた木質バイオマスの活用など、新たな試みに挑戦してみませんか。詳しくは以下HP<http://www.city.iida.nagano.jp/cgi-bin/kankyo/c-board/c-board.cgi?cmd=one;no=140;id>参照。

## 信州省エネパトロール隊 講習会への参加者募集中

「省エネルギー活動推進のポイント」「照明器具・建物・空調設備・生産設備・ファンポンプ・コンプレッサ・ボイラー・変電設備などの省エネ改善事例」「エネルギー供給設備」など。地球温暖化防止に向けた各事業所のできる省エネの取り組みについて考えます。

10月24日(月)午後2時から4時。さんとびあ飯田。講師は信州省エネパトロール隊長、竹村雅志さん(セイコーエプソン)です。

主催は(社)長野県経営者協会、(社)長野県環境保全協会。予約が原則ですが、当日参加も受け付けています。連絡先 tel 026-237-6625

e-mail [nccca@dia.janis.or.jp](mailto:nccca@dia.janis.or.jp)

10月はノーマイカー通勤月間。公共交通機関の利用をおすすめします。行き帰りの交通手段は飯田駅前13:30発(市民バス循環線右回り)、帰りはさんとびあ飯田16:35発(同左回り)、16:44飯田駅着です。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[p05300@tanagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tanagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 家族みんなで地球環境 について考えませんか 生活と環境まつり開催

11月5日(土)、6日(日)鼎文化センター、鼎体育館で「合併記念 生活と環境まつり2005」が開催されます。今年も研究会では、どんぐりや間伐材を使った「工作体験」コーナーを開きます。研究会参加事業所の皆さんのご協力、工作に使うドングリや木の実も続々集まっています。

5日(土)午後1時30分からは、スローライフジャーナリストの豊田



素行さんを迎えた講演会&シンポジウム「スローDE いいだシンポジウム」が行われます。

6日(日)午前11時と午後1時30分からはダムダムダンの「お笑い環境スクール」が行われます。景品付きのクイズもありませ、楽しみながら環境について学ぶ時間です。10時から講演会「アスベストについて知ろう学ぼう」も行われます。

他にも「ガーデニング講座」「新エネルギーのパネル展示」「犬のしつけ方教室」など環境や健康を体験しながら学ぶ企画が満載。合併を記念して南信濃村の物産展、食べ物バザーやフリーマーケットも。

環境を学びながら家族とふれあう機会。皆で参加してみませんか。  
<http://www.city.iida.nagano.jp/>

## アマゾンのジャングルから 熱いメッセージ 講演会のお知らせ

地球最大の酸素供給と二酸化炭素吸収の地アマゾン。11月12日(土)午後6時から、松尾公民館を会場に講演会「アマゾンのジャングルから熱いメッセージ」が行われます。講師は長坂優さん。俗称「アマゾンの長」、自称「アマゾンの百姓」、アマゾン森林保護植林協会会長です。大学卒業と同時に、アマゾンに移住。アマゾンの熱帯雨林を再生する運動の中心人物です。地球規模で緑が失われ、地球温暖化が進んでいる今日。肩のこらない、わくわくする講演です。ジャングルの話を聞きながら、環境問題を考えてみませんか。

問い合わせは飯田市環境アドバイザー 福島紀雄さんまで。(tel 52-0759)

## 省エネは有効な企業益 省エネルギー講習会報告



「省エネ効果50万円は、営業の利益率を5%と考えると1,000万円に該当。これは大きな企業益です」。

10月24日(月)飯田勤労者福祉センターを会場に、省エネルギー講習会が行われました。冒頭は信州省エネパトロール隊長、竹村雅志さんのことばです。

省エネパトロール隊は諏訪地方の事業所を母胎に2000年11月発足。加入事業所は現在45。希望する事業所に対して省エネルギーの提案を行うボランティアな組織です。各事業所のエネルギー管理士、電気主任技術者などの資格者を中心にチームを組み、事業所を訪問。現場の調査を進めながら、さまざまな改善提案を行っています。

この活動が認められ、今年7月長野県から信州省エネパトロール隊として委嘱。活動エリアを拡大し、県下各地で省エネ点検やアドバイスを始めています。

今回の講習会も新しい活動の一環。目的は省エネ診断を希望する事業所のとまりまとめと、省エネパトロール隊員の募集です。

写真を交えて、具体的な改善事例を次々と紹介。身の回りに心当たりのある事例の数々。改善のための費用や、投資費用の回収年度なども提示。すぐにも始めてみたくなる話がいっぱいでした。

「1.飛躍的な推進は生産革新」「2.室温、照明などの日常的な管理業務は全員参加の意識づくりの基本」「3.まだある、基礎設備の運転管理」「4.チャンスは新築、リニューアルのタイミング」「5.省エネパトロールは、発見と大きな成果の鍵」省エネ推進のポイントです。

ISO14001、2004年改定でいわゆる「紙」「ごみ」「電気」の省エネから、+の取り組みに力を入れる傾向があります。「されど省エネ」を実感できる機会でした。

省エネ診断受診企業募集中。詳しくは社団法人 長野県環境保全協会(026-237-6625

e-mail [nccca@dia.janis.or.jp](mailto:nccca@dia.janis.or.jp)まで

## 無暖房の家づくり 外断熱セミナー開催

北欧の地スウェーデンに、「無暖房住宅」が建てられました。冬場はそこに住む人、電気製品、照明などの熱を有効利用し、外断熱で寒気を遮断。夏は室内の暖気を排出し、外断熱で暖気を遮断。「外断熱」と「熱交換換気」がポイントです。

11月14日(月)、午後1時から茅野市公民館を会場に外断熱セミナー in 中部・東海「地球環境と無暖房住宅～エネルギーを使わない暮らし」が行われます。

講師は「無暖房住宅」の設計者、ハンス・エーク氏と、NPO 法人外断熱推進会議の堀内正純氏。

地球温暖化防止のために、省エネの運動が進められていますが、無暖房は究極の省エネです。

参加希望者は fax または e-mail で「住所」「氏名」「電話」「e-mail」などを外断熱推進会議まで。人数がまとまれば、飯田からの送迎バスも用意されるそうです。

講演会についての申込み、照会は下記へ

fax 03-3436-0678 tel 03-3436-4755

e-mail [info@sotodan-npo.org](mailto:info@sotodan-npo.org)

HP <http://www.sotodan-npo.org>

\*\*\*\*\*



「もしも天白川が話せたら」「今昔環境ものがたり」「母の味を大切に、食べることはどこかで環境全体につながっている」ふんだんな写真、読んでみたくなる見出しや文章が満載。巻末には環境をテーマとしたクロスワードクイズまで掲載されています。写真は愛知県日進市が発行した「環境基本計画やわ

らか版ゆの」です。日進市では2004年2月、市の環境基本計画がつくられました。本来の基本計画書とは別に市民にこの計画のことをよく知ってもらいたい、計画づくりに関わった市民の発意でつくられたのが「ゆの」です。日進市の環境基本計画づくりは2001年に始まりました。市民参加で3年間、のべ400回を超える会議のはじまりは、市民と職員の戦いであったそうです。ぶつかり合いながら次第に互いの考えを理解し合い、参加者一同が納得する計画ができあがりました。市民と職員の協働というところがよく使われるようになってきました。協働の意味を改めて考えるときに参考にしたい事例です。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機機) 研究会事務局  
[p05300@tanagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tanagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 貴重な力になりました 里山作業、無事に終了

「研究会の皆さんは、予想以上に働いてくれました。今は木材の価値が低迷し、山の管理を仕事とするのはむずかしい時代。日頃山に関わりがない方たちが時々山の管理に参加して、山を守っていく時代かもしれません」。今回の作業をコーディネートしてくれた、市役所竜丘支所伊藤支所長のことばです。



10月29日(土)、竜丘地区財産区の管理する、白井原の里山で、間伐作業を行いました。あいにく天気は雨でしたが、予定通り作業を決定しました。研究会からの参加者は15人。地元からは財産区役員の他ボランティアも参加、全体で30人ほどの作業となりました。

前回は、信州環境フェアで行ったクラフト細工の材料づくりが目的でしたが、今回は間伐作業が中心となりました。研究会の15人だけでも70~80本を伐採、全体でも150本近い実績です。

緑豊かな信州といわれますが、一步山に入ってみると、やせた針葉樹と暗い森、動植物にとって大切な雑木の生育も遅れています。間伐だけでなく枝打ち、下草刈りなど山を守る仕事にはきりがありません。

日頃の仕事と違う力を使ったことで、筋肉痛になった参加者も多かったようです。それでも間伐作業の達成感。慰労会のお酒の味も格別です。



竜丘地区財産区の管理する山林に限らず、ほとんどの山の手入れは不十分です。研究会として、これから何かの形で山とのつきあいが続くことを祈念します。

11月5日(土)、6日(日)、県文化センター・体育館で行われる「合併記念生活と環境まつり2005」。間伐作業で分けていただいた木片と、事業所の皆さんのご協力で集まったドングリなど木の実を使った工作体験コーナーのほかにも盛りだくさんの催し。ご家族そろっての参加、お待ちしております。

## 奥谷京子さんを迎えて 新しい仕事づくりを

### 考える



「今新しいことが起きている現場は、お金のないところ。お金がない、困っているところの方が知恵を出す。

そして財政に苦しむ国や地方公共団体も、がんばろうとしているところには何とかお金を捻出しようとしてくれます」。

10月29日(土)、市民出資による「おひさま共同発電所」のオープニングセレモニーが行われました。北は北海道、東は岡山から全国の出資者40人が参加。イベントにあわせ、日本全国で新しい仕事づくりを支援しているWWB/ジャパン事務局長の奥谷京子さんを招待。おひさま共同発電の取り組みをきっかけに、南信州から魅力的な仕事づくりが始まることをねらった企画です。

冒頭はセレモニーの終了後、行われた講演会の奥谷さんの発言です。

WWB(Women's World Banking: 女性のための世界銀行)/ジャパンは、女性が社会的経済的に自立していくための支援組織。第三世界の経済自立のためにフェアトレードをすすめる第三世界ショップ。志を担保に融資を行う市民バンクなど、片岡勝さんを代表とするプレスオルタナティブグループの一員で、地方発の新しい仕事づくりを続々発信しています。

「今までと同じではだめ。新しいことを考えて実行しながら、情報を発信する。そして外の人からここには何かがある、と思わせることがポイント。無から有を作り出す。当然失敗もあります。けれども失敗をおそれずに次から次へとアイデアを生み出すことが大事」。熱い志をもって発進したNPOの多くが厳しい環境である、という参加者の悩みにたいする奥谷さんの答えです。



今、奥谷さんたちが力を入れているのは若者たちによる起業。「若者は世間知らず。はらはらすることは多い。けれども任せると彼らは成長し、大人以上の力を発揮します。一般的な組織は、上位の人による指示によって動きます。指示待ち人間になってしまう。今の若者たちはそういう組織に反

発しています。大人たちは彼らの後ろからついていく。若者たちの発意を待ち、彼らに任せれば、下手でも何とかやりとげる。そして若者たちを育てるリーダーは、汗をかいて、一番格好の悪いところをやるのが役目。そういう関係が生まれることが、事業が続く秘訣です」。

「まず新しいことを起こす。そして新しいことに対し外からオファーが来る。そしてやってきたオファーを自分たちで選ぶことができるようになったときに仕事となります」。

## 魅力的なしくみ

### オークション

WWB/ジャパンが力を入れているのはオークション。「人」「もの」「金」など何か援助の意志を持つ人をオークション会場に集め、起業を志す人が前でプレゼンテーションを行います。たとえばレストランを起こそうという人に、お店での食事券1万円相当を買ってくれる人を1人。提案者にとって少し高めのハードルを主催者がもつけます。提案に対し、会場から挙がった人の数が、ハードルを超えれば、手を挙げた人が責任を持って支援する。そういうしくみです。

統合失調症の障害者の自立支援を行う人の事例。統合失調症を持つ人は、過食による糖尿病など、複合的な症状に至ることが多い。そこで、そういう人たちに向けた配食サービスを提案。

9月には東京で留学生によるオークションを開催。留学生は卒業後、就職しないと本国に戻される。意に添わない雇われ方ではなく、中国茶のカフェを開きたい。そういう提案に対し、60人の人たちが支援に手を挙げてくれました。オークションで受け入れられる秘訣は「元気」「やる気」「熱意」。とにかく前向きであること。

オークションの大事なもう一つの目的。それは提案する人たちのマーケティングの場。独りよがりなアイデアではなく、会場にいる普通の人から、生活者の感覚を実感する場でもあります。

お金のある人と志を持つ人をつなげる仕組みがこのオークション。オークションを通してお金を社会に有効に還元していく。そして利益を必要とする人に分配していく。オークションにはたくさんの可能性があります。

奥谷さんの具体的な経験に基づく話は説得力があります。これからも「環境」をキーワードに、よい形で飯田とつながることを期待しています。

【ご意見・お問合せ】【配信解除】

沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局

p05300@tanagawa-seiki.co.jp

木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局

ic1267@city.iida.nagano.jp



## 生活と環境まつり 大盛況の工作体験

11月5日(土)6日(日)、県体育館、県文化センターを会場に、「合併記念 生活と環境まつり2005」が行われました。

6日昼頃から降りはじめた雨の影響か、参加者数は5日2,500人にたいし6日は800人と伸び悩みましたが、研究会のブースは親子連れで終日にぎわいました。

今回のぐるみ通信は趣向を変えて、研究会の取り組みに参加していただいた皆さんの様子を写真でご紹介します。

### 会場は大盛況



### 仲よし3人組



### 未来の職人たち



### お母さんが夢中



### 宮下一郎代議士も視察に



### 牧野市長も参加



### 大人も楽しみました



### 大作の数々



### 家族サービスにもなりました 研究会メンバー



大成功に終わった今回の催し。ドングリや木の実あつめ、10月29日(土)竜丘財産区有林で行った間伐作業、前日準備、2日間のフェアの運営など、研究会事業所から多くの皆さんの参加があつてのことです。

‘地域の自然を残し、持続可能な地域づくりのため、新しい環境文化を創造する’という研究会の目的実現のため、これからも活動の広がりと深まりが期待されます。

### 工作体験に挑戦しませんか

‘まつり’で使った‘木の実’、間伐材‘残り’があります。事業所の福利厚生活動、地域の公民館、育成会、PTA活動などで使いませんか。グルーガン(電熱接着装置)などの工作用具も貸し出します。希望の方は研究会事務局、木下(飯田市役所)までご連絡ください。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 牧野飯田市長が 研究会の取り組みを紹介 国連大学ゼロエミッション シンポジウム



10月26日(水)、  
27日(木)東京渋谷区「UN ハウス  
ウ・タント国際会議場」で国連大学  
ゼロエミッション

シンポジウムが行われました。

国連大学は、人類の平和と発展という国連の目的にたいし、学術的に貢献するために1975年、活動開始。通常の大学とは違い、各国の研究機関と連携し、世界各地でシンポジウムやフォーラムを開催しています。

今回のシンポジウムはイクレイ日本との共催です。イクレイ日本は、持続可能な地域社会づくりを目指す自治体の国際的なネットワークです。

シンポジウムのテーマは「気候変動とゼロエミッション」。牧野市長の講演テーマは「地域ぐるみで新エネ省エネ～太陽光発電の現状」。点から面へ、地域ぐるみの環境改善運動を進める地域ぐるみ環境 ISO 研究会の活動や、南信州 いむす 21 の取り組み、飯田市役所の自己適合宣言と相互内部監査についても紹介。

地域ぐるみの環境改善活動は着実に成果を上げており、そういう活動と地域経済を結びつけ、新たな環境産業の創造により地域経済の活性化をめざす。そういう展望を示し、講演はまとめられました。

地球規模に拡大した環境問題。このシンポジウムをきっかけとして、国際的なネットワークへのつながりが期待されます。

## 飯田商工会議所 2つの環境経営セミナー のご案内

飯田商工会議所が主催する、環境経営セミナーが行われます。

### 利益の出る 5S 実践講座 ～捨てること、から始まる 5S の徹底～

5S は当たり前のことをきちんと実行すること。すべての仕事の原点です。基本であり大切なことではあるけれど、継続することが難しい。利益を出すための 5S の秘訣。実践的なお話です。講師は棚田譲二さん。5S アジア事務局、IRCA 品質マネジ

メント主任審査員、中小企業診断です。

11月25日(金)午後6時から、会場は地場産業振興センター。会員事業所は無料(未会員は1,000円)です。

### 環境問題とアスベスト被害 ～アスベストの危険性と対策

大きな社会問題にもなっているアスベスト。具体的な知識や健康問題などとの関わりについて考えます。講師は安藤真さん。エコビジネスネットワーク代表。環境ビジネスの第一人者で、経済産業省の新エネルギービジョン検討会委員などを務めています。

11月22日(火)午後2時から、松尾公民館。無料。

それぞれの講座に参加を希望される方は、「住所」「tel&fax」「事業所名」「参加者名」を記入の上21日までに商工会議所へ(fax24-1142)

## まずは 小さなまちづくりから 基本構想、講演会より



「ガーデニングの取り組みを広げるために、花いっぱい運動をやめました。花いっぱい運動のよくなるパターンは、行政が

同じような花の鉢を配るもの。その花は誰がどこでつくったかわからない。それはまちで花が育たない運動。まずはそこに住む人同士でどんな色のどんな花を飾るのかを考えることから始めましょう。」

11月5日、平成19年度にスタートする第5次基本構想づくりのための市民検討会議が行われました。冒頭は検討会議参加者を対象にした講演会講師、高田昇さんのことばです。高田さんは都市計画プランナーで立命館大学教授。全国各地のまちづくりの現場で実践的な取り組みを支援しています。

コミュニティガーデンが世界中に広がっています。人と自然とのつながりを取り戻す。人と人とのつながりをつくる。そしてそういう関係を人と地域とのつながりに発展させる。花を植える苗を育ててくれる農家と結ぶ。その花を街中の商店に飾り付ける。花という人の心を和ませてくれる道具を通して、一つことにとど

まらず、次々と取り組みを広げることで一人ひとりが元気になっていく。コミュニティガーデンはまちづくりの有効な手段です。

コミュニティガーデンに象徴される「小さなまちづくりプロジェクト」を地域の中にたくさん生み出し広げていく。そのことがそこに住む人や経済に活気を生み出す。

「点から面へ、地域ぐるみの環境改善活動」を目指す、私たち地域ぐるみ環境 ISO 研究会の思いと大いに通じる話です。

研究会の思いにつながる、環境の時代にふさわしい、新しい豊かさをめざした基本構想がつけられることが期待されます。

## 脱温暖化社会を築く シンポジウムのお知らせ

11月27日(日)13時30分から、長野県勤労者福祉センターで、脱温暖化シンポジウムが行われます。

長野県は06年2月の県議会に「長野県地球温暖化防止対策条例(仮称)」を提出するための準備を進めています。今回のシンポジウムは県内の環境系 NGO が共同で主催。市民の立場から条例のあり方について考えます。

「地球温暖化防止をめぐる国の最新の動き」(小林光、環境省地球環境局長)。「全国の地球温暖化対策条例はどうなっているか」(気候ネットワーク、平岡俊一さん)。「県地球温暖化対策条例の現状」(高木直樹、地球温暖化対策検討委員会委員長)。これらの課題提起を受けて、自由討論が行われます。参加費 500 円。連絡先は、信州大学の渡辺隆一研究室まで(026-238-4146)。

\*\*\*\*\*

10月に行われた、ノーマイカー通勤月間の集計がようやくまとまりました。結果は改めてご報告しますが、各事業所の創意工夫した取り組みに改めて敬服。

南信州 いむす 21、現在9つの事業所を一斉に審査中です。ISO14001、2004年改定にあわせた更新審査と重なった事業所も多く、忙しい時間をやりくりして審査に赴いた実務担当者の皆さんも多かったようです。

今月末からは、南信州 いむす 21 のレベルアップに向けたプロジェクトもスタートします。研究会の活動も、今が盛りです。快く担当者を送り出していただくそれぞれの事業所の理解に感謝です。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 1426人が参加しました ノーマイカー通勤推進月間

2004年、飯田市内8事業所によって発足したノーマイカー方策研究会。ノーマイカー方策研究会の呼びかけで、10月に地域としてははじめてのノーマイカー推進月間が取り組まれました。



8月18日に行われた事業所代表者会。研究会として積極的に参加しようと、すべての事業所でノーマイカー運動取り組み宣言を行い、10月の取り組みに参加することになりました。

ノーマイカー通勤推進月間に参加した事業所は38事業所、このうち30の事業所が研究会メンバーです。また研究会からの参加者は1426人でした。

## 延べ距離80,429km

### CO<sub>2</sub>の削減効果は18.7t

月間中、通勤に自家用車を使わなかった距離は、研究会事業所が80,429 km、取り組み全体で86,763kmとなりました。CO<sub>2</sub>に換算すると18.7t(全体で約20t)の削減効果です。



取り組みの方法は「徒歩21.2%」「自転車8%」「バス7.7%」「電車12.5%」「バイク7.1%」「相乗り43.2%」で、事業所の立地条件などから、相乗りの割合の高さが大きな特徴でした。

## アイドリングストップや 安全運転に心がけました

ノーマイカー通勤の取り組みにあわせてアンケート調査を行いました。アンケートではまず、ノーマイカーの取り組みについて、勤務中や家庭など、通勤以外で心がけていることについて調査しました。



燃料の消費を押さえたエコドライブとして、安全運転を心がけている人が最も多く勤務中が911人、家庭で792人。停車時などのアイドリングストップは勤務中が432人、家庭で375人。

移動にできるだけ自家用車を使わないために、徒歩が勤務中に161人、家庭で202人。自転車利用が勤務中35人、家庭で85人。バイク利用が勤務

中49人、家庭で47人。

他にも軽自動車の利用やハイブリッド車の購入など、アンケートの結果から、通勤以外でも自家用車から排出するCO<sub>2</sub>の削減に向けて、通勤時以外にも取り組んでいることがわかります。

## 地球温暖化防止のために、 地域をあげて取り組みたい

アンケートの自由記述からも、たくさんの方が意見が寄せられました。



「地球温暖化防止のために一人ひとりの行動が大事」「子どもの未来のためにも温暖化防止に取り組むたい」「今回の取り組みによって改めて地球環境問題を考えるようになった」「家族で地球環境問題について話し合う機会を持った」など、ノーマイカー通勤推進月間の取り組みを、地球温暖化防止のための取り組みとして意識した意見が多く寄せられました。

また「もっと多くの事業所で取り組むことが必要」「地域をあげた取り組みにすることが必要」「今回をきっかけにずっと続ける活動にしていくことが必要」など、取り組みの広がりや継続を期待する意見もありました。

事業所として日常的にEMSに取り組んでいることが、取り組みにたいする共感につながっているようです。

## 公共交通の充実を

一方、ノーマイカー通勤をすすめるための条件として、公共交通機関の充実を希望する声も多く寄せられました。



今回の取り組みでも自家用車の相乗りが43.2%と、群を抜いていました。それぞれの事業所の立地条件による大きな要因ですが、公共交通機関の整備も課題です。

「ノーマイカー通勤の日を決めて、事業所毎に勤務の時間を合わせ、事業所が独自に、あるいは公共交通機関がその日に限りバスなどを走らせることはできないか」という意見もありました。

公共交通機関を充実させるためには、公共交通機関を利用しようという利用者側の意識向上、定時勤務など事業所側の工夫、損益などの経済コストからCO<sub>2</sub>の削減など環境コストを重視した公共施策など、総合的な取り組みが求められます。

## 安全なまちづくりを

徒歩や自転車通勤に取り組んだ参加者からは「歩行者にとって歩きにくい歩道や、歩道の整備されている道路が多く、危険を感じた」「自転車通勤用のレーンをつくるなど、自転車に配慮した道路整備をしてほしい」「暗くなってから歩いて帰るとき、不安を感じる」などの声も寄せられました。



道路や街路の整備などのインフラ整備とともに、まちに住む人同士の人間関係・信頼関係も必要です。ノーマイカーの取り組みを通して、広くまちづくりの課題も見えてきました。

## 次につながる取り組みに

八十二銀行では、すでにエコライフ活動によるCO<sub>2</sub>削減運動に取り組み、自家用車だけでなく、リビング、キッチン、浴室、洗面所などの項目に分けた取り組みです。ノーマイカー通勤の取り組みから、広く家庭や社会生活でのCO<sub>2</sub>削減の取り組みにつなげていくことも大切です。

今回のノーマイカー通勤月間は、あくまできっかけです。1996年のCOP3を受けて1997年、我が国では地球温暖化対策推進法がつくられました。この法律では各地方自治体にCO<sub>2</sub>削減のための地域計画の策定が義務づけられています。飯田市ではこの法律を受けて、2004年8月「飯田市省エネルギービジョン」がつくられました。

1990年飯田市で排出された地球温暖化ガスは73万5千t、削減目標は10%。このうち「環境に優しい交通体系への転換」による削減目標は6,121t、今回の取り組み成果20tは目標の0.32%です。今回のような取り組みを1年通して進めたとしても約3万8千人の参加が必要となります。

この取り組みをつなげ、広げていくために一層の研究と実践が求められます。

なお、取り組みのまとめと、これからの方向付けを行うための実務者会を12月19日(月)に行います。

\*\*\*\*\*  
8月の代表者会で決定し、9月に全事業所でノーマイカー通勤推進宣言、そして実務者会。短い期間の中でしたが、事業所代表者の皆さんのご理解、従業員の方々のご協力、実務担当者の皆さんの調整など、関わったすべての皆さんに感謝です。

【ご意見、お問合せ】【配信解録】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[p05300@tanagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tanagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)





## 塩尻市から視察 南信州 いむす 21 の 現場を訪ねて

11月21日(月)塩尻市省エネルギービジョン策定委員会が南信州 いむす 21 の視察に訪れました。



1997年、COP3を受けて地球温暖化対策推進法が作られました。この法律で地方自治体は、地球温暖化ガス削減のための地域計画を策定することが義務づけられました。

飯田市はすでに昨年8月に策定。塩尻市では、地域でCO<sub>2</sub>削減に具体的に取り組むための有効な方法として、南信州 いむす 21 のような地域版EMSに注目。今回の視察の目的です。

今回は3つの組織の現場をご案内しました。

## ただいま審査中 飯田クリーン(有)



最初の訪問先は、飯田市の一般廃棄物の収集運搬を受託している事業所、飯田クリーン(有)です。塵芥収集車のバケット内の清掃時間を5分以内として節水につとめており、そのことが作業効率のアップにも結びついているそうです。事務所内のごみ分別もきめ細かく行われています。同業者と共同で、イタチが沢最終処分場に持ち込まれた廃棄物のうち、使えそうなものを選び、8月に行われた、いむす 21 人形劇フェスタで無料頒布会も行いました。

2005年6月23日に行われた取り組み宣言を受けて、従業員一人ひとりの取り組み宣言も行いました。

## 次世代の担い手として 飯田工業高校

次の訪問先は飯田工業高校です。生徒会が中心となって取り組んでいることが特徴です。生徒会にISO委員会という組織があり、この委員会が中心となって取り組みを進めています。

OIDE 清掃という、JRの駅舎や公園など、学校外の清掃を月1回、当番を決めて行っています。毎月ISO新聞を発行することで環境改善の意識づくりにつとめており、毎年交代する生徒会による継続的な取り組みの底辺づくりを心がけています。

昼休みにあわせて訪問しましたが、ちょうど毎日のゴミの分別作業中。徹底した分別と、生徒たちの取り組み姿勢に一同感心。



## 継続的改善のしかけは 一日一善、信南サービス(株)

最後は、研究会参加事業でもある信南サービス(株)。サイトの一つ、駒ヶ岳SAで昼食も兼ねた視察です。とうもろこしでつくった楊枝を、使い終わったものを堆肥にして周辺緑化に活用。仕入れ用につくった通い箱、リターナブルな道具を使い段ボールの発生を抑制。

環境改善のアイデアは、従業員一人ひとりの業務報告を兼ねて作成する提案書。採用された提案は、採用前と採用後の写真をつけてファイルにストック。日々の活動の積み重ねが目に見えるしくみを一日一善とし、継続的改善のしかけとしています。

三者三様の現場でしたが、環境改善にたいする熱い思いは共通。南信州 いむす 21 の広がりを実感する機会でした。



## 環境意識を伝えたい 広報 いむす 21 だ 研究会が紹介されました

広報 いむす 21 11/1号で、地域ぐるみ環境ISO研究会が紹介されました。筆者はオムロン飯田(株)の原瞳さんです。



地域ぐるみ環境ISO研究会は、1997年に市役所を含めた地元6事業所で発足し、8年経った現在では30もの事業所が研究会に参画しています。環境問題は、点でなく面でやる地域活動。1つの事業所で取り組むのではなく、事業所や自治体の枠を超えて「地域ぐるみ」で行う事が大切。研究会はそんな思いを持って活動を行っています。

研究会の活動の1つとして、今年も11月5、6日に開催される「生活と環境まつり」への出展があります。おまつりでは、研究会の活動を知ってもらう為の展示と、親子で自然と触れ合う「どんぐり・間伐材工作コーナー」が恒例になっています。このコーナーは毎年大盛況！おまつりの期間中は常に工作を楽しむ親子連れでにぎわっています。

私はこの活動で工作のお手伝いをしていますが、自然の恵み、自然と触れ合う楽しさ、自然を大切にすることを子供たちに伝えたいと思っています。その心が、子から親へ、親から子へ、人から人へ、そして地域へ、浸透していったら素晴らしいと思います。

\*\*\*\*\*

11月28日、南信州 いむす 21 のレベルアッププロジェクト会議が行



われました。地域版EMSとして構築されて4年目、継続審査を迎える事業所も生まれてきました。継続的改善を進めるために南信州 いむす 21 自身のレベルアップは課題とされてきました。初回の今回は南信州 いむす 21 の課題について話し合いました。次回までにレベルアップに必要な要求事項について、各自の宿題としました。ISO14001自己宣言レベルをめざした挑戦です。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
[p05300@tamagawa-seiki.co.jp](mailto:p05300@tamagawa-seiki.co.jp)  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
[ic1267@city.iida.nagano.jp](mailto:ic1267@city.iida.nagano.jp)



## 他地域の 追隨を許さないしくみ 研究会の取り組みが ブログで紹介されました

11月28日(月)、  
神奈川県小田原市から加藤憲一さんが飯田に訪れました。「環境再生と日本経済(岩波新書:三橋規宏著)」に紹介された、飯田の取り組みを読まれたことがきっかけです。



視察目的は地域ぐるみ環境 ISO 研究会と南信州 いむす 21 の取り組み。市役所で概要を説明したあと、研究会メンバーでもある井坪設備工業へ。井坪正さんから事業所としての活動と、研究会のメンバーとしての思いについてお話を伺いました。

加藤憲一さんは昨年5月に行われた小田原市長選に39歳で立候補、現職に惜敗し、現在は地域づくりのシンクタンクを起業、精力的な活動を進めている方です。

加藤さんのブログで研究会のことが以下のように紹介されました。

飯田市は、地域で取り組むことの出来る環境対策への取り組みとして、「地域版環境ISO」に積極的に取り組んでいます。民間企業が先導し、行政がバックアップする形です。「地域ぐるみISO研究会」というのが、平成9年ごろから民主導で発足し、現在地域内で環境ISOを取得しているのが約40社。もちろん、飯田市役所も取得済みです。環境ISOの取得には数百万の費用がかかるので、地域版の独自の環境適合規格を立ち上げ、こちらもどんどん取得を推進しています。

このテーマにおける飯田の取り組みは、他地域の追隨を許さず、国内随一といつてよいでしょう。飯田を愛し、飯田に根を張って生きていく覚悟を持った企業群の存在が、この活動のエンジンです。仕組みだけをまねしても、ここまで展開することはきっと難しいでしょう。

心強いエールをいただきました。評価を励みとして、一層の活動の広がりが期待されます。加藤さんのブログアドレスは以下の通り。

<http://katoken-power.cocolog-nifty.com/ble/>



初詣のりんと並米

## 12月は 地球温暖化防止月間 アイドリング・ストップ を進めませんか

1997年COP3京都会議が開催されました。翌1998年12月、第1回目の地球温暖化防止月間が始まりました。今年もいたるところで、温暖化防止に向けた取り組みが進められています。

また12月は大気汚染防止推進月間でもあります。冬場は地球温暖化ガスの一つ、窒素酸化物が増える季節です。家庭や自家用車の暖房使用も大きな原因となります。

社団法人長野県環境保全協会から、アイドリング・ストップ運動への協力依頼をいただきました。

10月に行われたノーマイカー推進月間にあわせて、研究会に参加する多くの事業所が、アイドリング・ストップにも取り組みました。



普通自動車が一日10分間アイドリング・ストップを行うと、一年で1671のCO<sub>2</sub>が削減されます。県内すべての自動車が一日10分間取り組むと、21万6千t、長野県で一年間に排出するCO<sub>2</sub>の1.5%の削減につながります。「買い物などで車をはなれるとき」「車内での人待ち」「荷物の積みおろし」「駐車中のエアコン使用や暖機運転を控える」などの方法があります。

節約カリスマ主婦、和田由貴さんによると、アイドリングストップなどのエコドライブを行うことで、燃費が50%変わるそうです。

環境と家計のために、できることから取り組んでみませんか。

## 不要加ダ - 手帳の活用も

環境保全協会飯田支部では、恒例となった不要カレンダー・手帳の募集とプレゼント会を行います。



募集期間は12月22日(木)から28日(水)。持ち込み場所は八十二銀行飯田支店、及び飯田信用金庫本店です。

プレゼント会は12月29日(木)、30日(金)上記事業所を会場に行われます。多くの皆様のご協力、お待ちしております。

## 第21回は竜丘自由学校 ムトス飯田賞

「ムトス」とは「愛する地域を思い、自分ができることからやっていこう」という飯田市の地域づくりの合い言葉です。「地域の自然を残し、持続可能な地域づくりのため、新しい環境文化を創造する」、地域ぐるみ環境 ISO 研究会の主旨にも共通することばです。

12月4日(日)、さんとびあ飯田で、第21回ムトス飯田賞表彰式が行われました。今年の飯田賞を受賞したのは「竜丘自由学校」。竜丘公民館の役員を退任した方たちが中心となり、2002年に結成されました。公民館役員時代の貴重な経験を活かし、農作業などの体験を通して、学校の先生も巻き込みながら、子どもたちの育成活動を進めています。



竜丘自由学校代表 林正直さん

大正デモクラシーといわれた時代、竜丘小学校で木下紫水という美術教師が自由画教育を広めました。自由画教育は、それまでお手本の模写だった絵画教育を、子ども自身の発想を活かすようにすることを通し、自由な心を養う教育運動です。

竜丘は日本の中でもこの教育活動が最も広がった地域といわれ、そこから多くの人材が育っていきました。そういう人材や地域風土が、戦後の公民館活動などに引き継がれ、現在に至っています。

自由画教育の心を引き継ごうという会員の意志により、竜丘自由学校と名付けられました。

ムトス飯田賞授賞式にあわせて、まちづくり団体交流会や、市民活動フェスティバルも同時開催。まちづくり団体交流会では16団体が発表。市民活動フェスティバルでは35団体が展示やステージ発表に参加。「グリーンクラブいいた」「人と環境に優しい農産物生産者ネットワーク」「住まい情報支援センターヒス」「南信州おひさま進歩」「グリーンウッド自然体験教育センター」など、環境問題に取り組むたくさんの市民団体も参加しました。

ムトスの心の広がりとともに、環境改善の活動と結びつき、面の取り組みが一層活発になることが期待されます。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株式会社) 研究会事務局  
p05300@tanagawa-seiki.co.jp  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
ic1267@city.iida.nagano.jp



## 21 世紀は歴史の峠

神野直彦さん、  
阿智村で講演



「...私たちは、あまりに簡単に幸福になりすぎた。...工場を建設し、...農民の子どもが働きに行った。...農業社会は解体され、...新しい国になったが、...本当に我が家にいるという感覚をもてたかどうか確かでない。...1950 年から 60 年に至る 10 年間に、毎日 300 戸の小農家が閉業...農業国スウェーデンは終焉した。人々は大きな単位、大きな市町村を信じ、都市には遠い将来にわたって労働が存在すると信じた。私たちは...物質的には豊かになったが、...平安...を使い果たした。小農民が消滅...小職人や小商店が...病気のおばあさんがよこになっていたあの小さな部屋...なども姿を消した。小さいものは何であれ、もうけが少ないというのが理由だった。なぜなら、幸福への呪文は、『もうかる社会』だったからだ」。

12 月 16 日(金)、阿智村合併 50 周年を記念し、東京大学経済学部教授、神野直彦さんの講演会が行われました。冒頭は、講演会の始めに神野さんが引用したスウェーデンの子どもたちが学習する環境教育の教科書の一節です。

神野さんは長野県の中長期構想の策定委員として「未来への提言～ commons から始まる信州ルネッサンス革命」の作成に関わりました。「人間回復の経済学」「二兎を得る経済学」などの著書もあります。

私たちは、地球の限界が明らかになった時代に生きています。次世代にバトンタッチする前に、これまでとは違う生き方を選ばなければなりません。神野さんは今の時代は「歴史の峠」といいます。この講演会では、これからの地域社会や私たちのありようについて、いくつかの鍵を与えていただきました。

## 地産地消

### ～キューバをモデルに

持続可能な社会づくりに向けて、ヨーロッパ、特に北欧が先進的な取り組みを進めています。その北欧が手本にしようとしている国がキューバです。1989 年、ベルリンの壁が崩壊。国際的に社会主義政権が崩れるとともに輸入量が 1/5 に。キューバは自立の道を余儀なくされました。

食糧自給のためにあらゆる場所を緑にし、食糧を作る。医療費を抑えるために徹底的な予防の学習活動を広げる。地域で自立した暮らしを送ることで、ラテン音楽などに象徴される独自の文化が復活。世界有数の観光立国になりました。地産地消が復興の鍵でした。

## 重工業から

### 知識集約産業へ

一つの製品を作るために莫大な知識を投資する。どうしたら自然に負荷を与えずにものづくりができるか、これも大事な知識です。18 世紀の産業革命で発達した軽工業。19 世紀には重化学工業が発達。農業中心の時代、人は生きた自然との関わりの中で、自然とつきあう知識を蓄えました。死んだ自然を相手にする工業の発達にともない、人は自然とのつきあい方を見失ってきました。知識を集約し、改めて自然とのつきあい方を蓄えるのが知識集約産業です。



## 人々の絆を強める時代

アメリカの大手薬剤会社に働く多くの研究者たちが、新薬の研究のためにアマゾンのシャーマンの知識をさずかるうと、南米を訪れています。シャーマンは、人の病に効く数千種類に及ぶ薬草についての知識をたくわえています。彼らシャーマンは無償で知識を与えてくれます。シャーマンにとって知識とは、すべての人たちに与えるものと言い伝えられています。一人ひとりの知識を市場の取引とせず、皆で共有する。知識を

発展させるために、人々は協力しあい、与えあいながら人と人の絆を強めあう。人類存亡の危機を乗り越える大事な条件です。

## commons

### ～未来社会の行方

「人と人、人と自然との関係をつむぎなおす」「所有要求から存在要求へ」「観客社会から参加社会へ」「蓄えることから与えることへ」「予言の自己成就：そうなるのだと確信し、そうする意欲が強ければ、そうなる可能性が高まる」新しい時代の可能性を考えると鍵となる、大事なことは、それらの鍵となる言葉をお互いの顔の見える commons(地域社会)から積み上げ直すことで 21 世紀の可能性が見えてくる。これからの時代のあり方を考えるヒントをたくさんいただいた講演会でした。

講演の最後に、皇太子殿下が 45 歳の記者会見で、愛子様の教育方針について引用した、アメリカの教育者、ドロシー・ロー・ノルトさんの詩を紹介していただきました。

## 子ども

批判ばかりされた 子どもは  
避難することを おぼえる  
殴られて大きくなった 子どもは  
力にたよることを おぼえる  
笑いものにされた 子どもは  
ものを言わずにいることを おぼえる  
皮肉にさらされた 子どもは  
鈍い良心の もちぬしとなる  
しかし 激励を受けた 子どもは  
自信を おぼえる  
寛容にであった 子どもは  
忍耐を おぼえる  
賞賛を受けた 子どもは  
評価することを おぼえる  
フェアプレーを経験した 子どもは  
公正を おぼえる  
友情を知る 子どもは  
親切を おぼえる  
安心を経験した 子どもは  
信頼を おぼえる  
可愛がられ 抱きしめられた 子どもは  
世界中の愛情を 感じることを おぼえる

\*\*\*\*\*

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
p05300@tanagawa-seiki.co.jp  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
ic1267@city.iida.nagano.jp



## 自治体環境グランプリで 萩本代表が講演

「環境経営と自治体・NPOとの協働～地域戦略としての環境マネジメント」。1月25日(水)、早稲田大学を会場に「自治体環境グランプリ表彰式」にあわせたシンポジウムが行われます。



シンポジウムでは、研究会の萩本範文代表が講師として招待され、前述のテーマで講演します。

自治体環境グランプリは財団法人社会経済性本部が主催。環境問題の解決に向けて、民間やNPOと協働し、優れた取り組みを進めている自治体を表彰することが目的です。

飯田市は第4回の昨年、環境大臣賞とグランプリを同時に受賞しました。受賞のテーマは「地域戦略として地域ぐるみでの『環境文化都市』への挑戦」です。

萩本代表は、受賞自治体を代表して招待されました。午後1時から5時半まで、早稲田大学小野記念講堂で行われます。

自治体ではなく、研究会が招待いただいたことにも価値があります。皆で参加してみませんか。

## (株)マエダとイタチガ沢 事業所見学会、 今回は静脈産業

4,713t(H12)から2,955t(H16)へ37%の減少。これはイタチガ沢最終処分場に埋め立てられる一般廃棄物の量です。

12月19日(月)研究会実務担当者会に先立ち、恒例の事業所見学を行いました。視察先は、今年5月に仲間入りした(株)マエダと、飯田市が運営するイタチガ沢最終処分場です。

ものをつくる業種を「動脈産業」、廃棄物を扱う業種を「静脈産業」ということもあります。実務担当者は仕事から、廃棄物についても関心を持



っています。しかし廃棄物の分別処理の現場を見学する機会はなかなかありません。今回の見学会も、異業種による研究会であるからこそ実現できました。

イタチガ沢最終処分場では、家庭から出る廃棄物の実際と、ガラスビンやペットボトルのリサイクルの分別現場を見学。埋め立てゴミが減少した大きな理由は、平成12年に始まったプラ資源の回収によるもの。家庭での分別も次第に徹底してきましたが、そこに積まれた膨大なガラスビンやペットボトルの量を見ながら、リデュース、リユースの必要を改めて実感しました。

(株)マエダは主に産業廃棄物の中間処理を仕事としています。扱量は鉄25,000t、紙7,500t、非鉄金属1,400t、廃プラスチック1,000t(H16)。鉄のプレスや紙の圧縮梱包の実際を見学させていただきました。

会社案内の表紙のことは「未来の子どもたちに、豊かな環境を残したい」が印象的でした。



## ノーマイカー通勤と、 南信州いむす21 グレードアップ

続いて飯田市役所で実務者会が行われました。ノーマイカー通勤の取り組みについては、ぐるみ通信136号ノーマイカー特集号のまとめを確認しました。

南信州いむす21については、ISO14001の要求事項に基づき、初級、中級、上級の3段階に分けて、自己宣言レベルに近づけるような階層化を計ること。要求事項を、誰にでもわかるようなことばにすることで、取り組みやすくすること。などプロジェクトの進捗状況を確認しました。



## 京都議定書発効 一周年を記念して

2月16日、京都議定書が発効して1年目を迎えることを記念した、研究会合同の取り組みについて話し合いました。昨年、議定書が発効した当日は、研究会として宣言文を作成。事業所ごとに朝昼夕礼や、回覧などで宣言文を確認しました。今年は、イラストなどを盛り込みながら、地球温暖化の危機的な状況や、温暖化防止対策についてわかりやすい資料をつくろう、という意見が出されました。

## これからも続けたい、 里山保全と クラフトづくり

11月5日(土)6日(日)に行われた生活と環境まつりに向けて、竜丘地区の財産区有林で間伐作業を行い、当日は間伐材やドングリ区のみを使った工作体験を行いました。7月に行われた信州環境フェアに続く企画です。当日は宮下一郎代議士や、牧野飯田市長も参加。人気のブースでした。工作体験ではけがをする子どももいますが、けがをすることも大切な体験。親子で参加する機会としても大切。里山の間伐作業も楽しく、ぜひこれからも続けていきたいという意見が出されました。

## グリーン電力を学ぶ

おひさま進歩エネルギー(有)からは、グリーン電力証書の購入について、説明を受けました。グリーン電力は、太陽光や風力、バイオマスなど化石燃料によらずに供給される電力のことです。グリーン電力証書は、クリーン電力の取り組みに対する投資や支援の制度です。会員事業所の中部電力もグリーン電力の取り組みを進めています。グリーン電力証書については、事業所単位で改めて、おひさま進歩エネルギー(有)からセールスいただく予定です。

\*\*\*\*\*

事業所見学会当日は、寒冷前線が日本列島を覆う極寒の日。作業を行う皆さんのご苦勞を改めて感じるとともに、見学会を受け入れていただいた皆さんに感謝です。

【ご意見、お問合せ】【配信解除】  
沢柳俊之(多摩川精機株) 研究会事務局  
p05300@tanagawa-seiki.co.jp  
木下巨一(飯田市役所) 研究会事務局  
ic1267@city.iida.nagano.jp